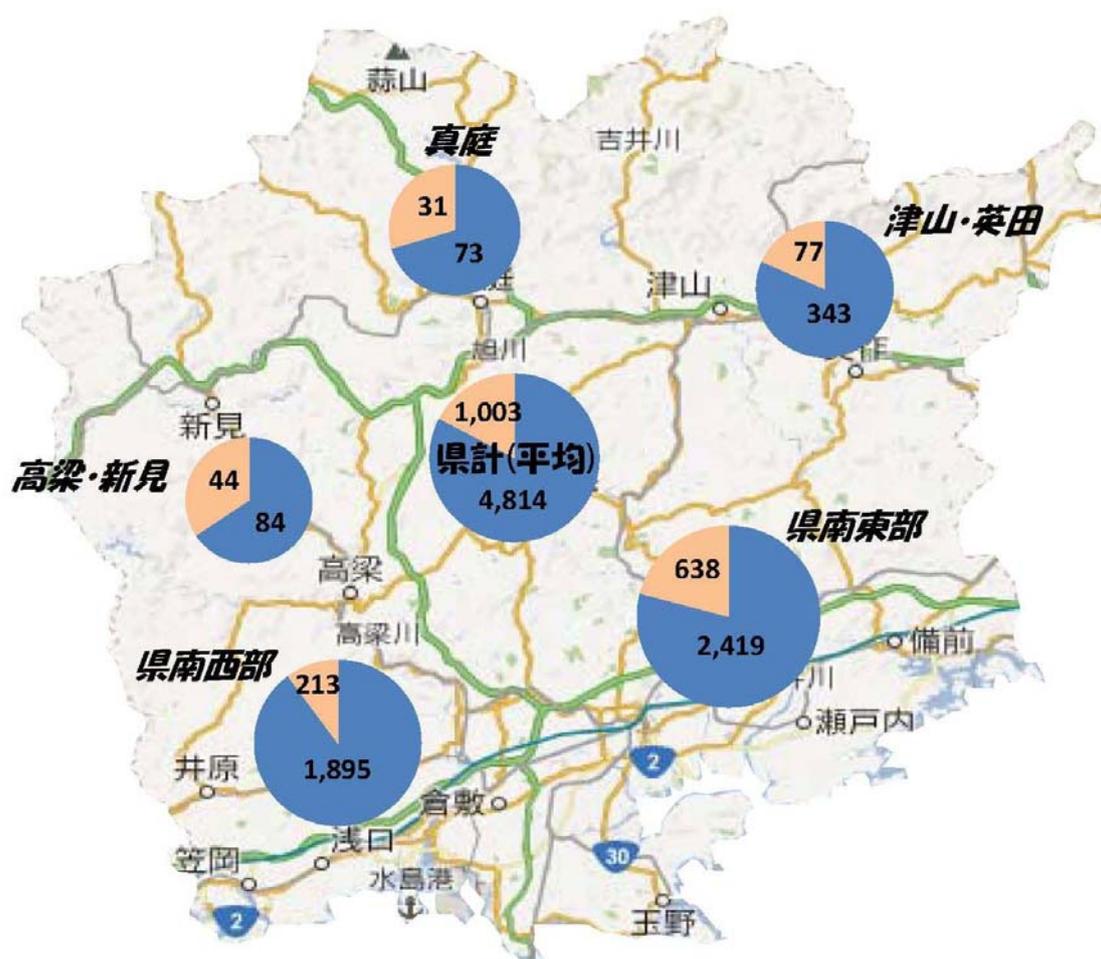


岡山県における医師の偏在状況



平成 25 年 2 月

岡山県地域医療支援センター

岡山市北区内山下 2-4-6 岡山県庁 5 階 医療推進課内
<https://sites.google.com/site/chikiiryous33/>
<http://www.facebook.com/chikiiryous33>
TEL : 086-226-7381 FAX : 086-224-2313
E-mail : chikiiryous@pref.okayama.jp

I. 背景

平成 24 年現在、全国の医師の偏在状況を示す統計調査としては、厚生労働省が 2 年ごとに実施している「医師・歯科医師・薬剤師調査」（各年 12 月 31 日現在）、毎年実施している「病院報告」（各年 10 月 1 日現在）及び 3 年ごとに実施している「医療施設（静態）調査」（各年 10 月 1 日現在）の 3 種類である。これらの統計調査の集計区分は表 1 のとおりであり、常勤医師と非常勤（常勤換算）医師の地域や診療科による偏在の状況（二次保健医療圏・市町村別、病院・診療所別、診療科目別）を適切に把握することは困難である。先行研究には、「病院報告」のデータを活用して二次医療圏ごとの人口 10 万人当たりの病院勤務医師数（常勤換算）などを試算し、各都道府県における地域偏在状況を分析したもの¹⁾や、山形県の一般病院における二次医療圏ごとの常勤・非常勤（常勤換算）別の医師数の推移などを調査したもの²⁾があるが、県単位で医師の偏在状況を詳細に分析したものは見受けられない。

我々は、病院や診療所等が、医療法第 6 条の 3 に基づき、毎年、県知事への報告を義務付けられている医療機能情報（岡山県医療機能情報提供システム「おかやま医療情報ネット」³⁾）に基づき、岡山県における二次保健医療圏ごとの医師の分布を検討した。

表 1 厚生労働省が実施している統計調査の集計区分等

統計調査名		調査頻度	二次医療圏別	市町村別	診療科目別	常勤・非常勤別
医師・歯科医師・薬剤師調査		2年ごと	○	○	○	×
病院報告	従事者票	毎年	○	×	×	○
医療施設（静態）調査	病院票	3年ごと	○	×	○	×
	一般診療所票		○	×	×	○
岡山県医療機能情報提供システム「おかやま医療情報ネット」		毎年	○	○	○	○

II. 方法

1. 用いたデータ

住民や患者による病院等の適切な選択を支援するため、インターネット上に公開している岡山県医療機能情報提供システム「おかやま医療情報ネット」³⁾のデータベースから、平成 23 年度法定報告（定期）（平成 23 年 10 月 1 日現在）に係る病院及び一般診療

所の医療機能情報のうち、医師の診療科目ごとの①常勤医師数、②非常勤医師の延べ人数、③非常勤医師の常勤換算人数、④常勤換算合計医師数（①+③）のデータをそれぞれ抽出した。なお、常勤医師の定義と非常勤医師の常勤換算人数については、医療法第25条第1項の規定に基づく立入検査要綱（厚生労働省医政局）別紙「常勤医師等の取扱いについて」⁴⁾に基づき算出しており、常勤医師は、原則として各医療機関で定めた医師の勤務時間の全てを勤務する者をいい、医療機関で定めた医師の一週間の勤務時間が32時間未満の場合は、32時間以上勤務している医師を常勤医師とし、その他は非常勤医師として常勤換算している。

2. 分析方法

岡山県全体及び二次保健医療圏（県南東部（A）、県南西部（B）、津山・英田（C）、真庭（D）、高梁・新見（E））ごとの人口10万人当たりの常勤換算合計医師数を記述した後、病院・診療所で層別を行った。さらに、表2のとおり診療科目の統合処理を行い、内科系12科、外科系7科、整形外科、小児科、精神科、産婦人科、その他の診療科それぞれについて病院・診療所で層別を行った。

表2 関連する診療科目の区分

内科系12科	内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科(胃腸内科)、胃腸科、循環器内科、アレルギー科、リウマチ科、腎臓内科、糖尿病内科(代謝内科)、血液内科、感染症内科
外科系7科	外科、呼吸器外科、心臓血管外科(循環器外科)、肛門科(肛門外科)、気管食道科(気管食道外科)、消化器外科(胃腸外科)、乳腺外科
産婦人科	産婦人科、産科、婦人科

内科系12科、整形外科、小児科、産婦人科については、特定の年齢層の医療需要が高いことから、二次保健医療圏ごとに異なる年齢構成を加味して医師数の比較を行った。県全域（県平均）の人口比率⁵⁾は65歳以上が26%、15歳未満が14%で、出生数比率⁶⁾は0.86%である。小児科と産婦人科は、「岡山県保健医療計画」⁷⁾で採用されている15歳未満人口1万人当たり、出生数1千人当たりの医師数を比較した。内科系12科と整形外科は、65歳以上人口3万人当たりとした。

Ⅲ. 結果

1. 二次保健医療圏ごとの常勤換算医師数（人口 10 万対）

岡山県の常勤換算合計医師数は 5,817 人で、うち常勤 4,814 人（構成比 83%）、非常勤（常勤換算）1,003 人（17%）（延べ 4,290 人）であった（表 3）。

表 3 岡山県の常勤換算医師数

		病 院					診 療 所					合 計							
		常勤		非常勤		計	常勤		非常勤		計	常勤		非常勤		計			
		A	比率	(延べ人数)	(常勤換算)		比率	A	比率	(延べ人数)		(常勤換算)	比率	A	比率		(延べ人数)	(常勤換算)	比率
県 計 (全診療科計)		3,072	80.5	2,656	744.3	19.5	3,816.3	1,742	87.1	1,634	258.5	12.9	2,000.5	4,814	82.8	4,290	1,002.7	17.2	5,816.7
二次保健医療圏別	県南東部 (A)	1,465	74.7	1,418	496.7	25.3	1,961.7	954	87.1	840	141.7	12.9	1,095.7	2,419	79.1	2,258	638.4	20.9	3,057.4
	県南西部 (B)	1,343	90.5	680	141.4	9.5	1,484.4	552	88.5	536	71.7	11.5	623.7	1,895	89.9	1,216	213.2	10.1	2,108.2
	津山・英田 (C)	176	78.1	273	49.2	21.9	225.2	167	85.8	141	27.6	14.2	194.6	343	81.7	414	76.8	18.3	419.8
	真 庭 (D)	43	60.7	135	27.9	39.3	70.9	30	91.6	29	2.8	8.4	32.8	73	70.4	164	30.6	29.6	103.6
	高梁・新見 (E)	45	60.7	150	29.1	39.3	74.1	39	72.6	88	14.7	27.4	53.7	84	65.7	238	43.8	34.3	127.8
診療科目別	内科系12科	1,000	77.4	1,038	292.5	22.6	1,292.5	886	85.9	972	145.8	14.1	1,031.8	1,886	81.1	2,010	438.3	18.9	2,324.3
	外科系7科	411	84.9	276	73.3	15.1	484.3	89	90.5	69	9.3	9.5	98.3	500	85.8	345	82.7	14.2	582.7
	整形外科	188	81.6	204	42.3	18.4	230.3	115	92.1	59	9.8	7.9	124.8	303	85.3	263	52.2	14.7	355.2
	小児科	155	77.7	147	44.6	22.3	199.6	104	86.8	181	15.8	13.2	119.8	259	81.1	328	60.4	18.9	319.4
	精神科	173	80.7	135	41.3	19.3	214.3	70	84.4	67	12.9	15.6	82.9	243	81.8	202	54.2	18.2	297.2
	産婦人科	106	80.4	79	25.8	19.6	131.8	85	82.2	53	18.4	17.8	103.4	191	81.2	132	44.3	18.8	235.3
	その他の診療科	1,039	82.2	777	224.4	17.8	1,263.4	393	89.5	233	46.3	10.5	439.3	1,432	84.1	1,010	270.8	15.9	1,702.8

岡山県の人口 10 万人当たりの常勤換算合計医師数(県平均)は 301 人(うち非常勤 52)であり、全国平均の 250 人 (49)⁸⁾ を概ね 2 割上回っていた。医療圏ごとでは、多い順に A 337 人(うち非常勤 70)、B 295 人(30)、C 219 人 (40)、D 203 人 (60)、E 191 人 (66)となり、県北 3 圏域 (C、D、E) では、それぞれ県平均と全国平均をともに下回っていた。県南 2 圏域 (A、B) では 318 人 (対県平均 106%)、県北 3 圏域では 210 人 (70%) であり、県南と県北の常勤換算合計医師数 (人口 10 万対) には 108 人の差があった (図 1)。

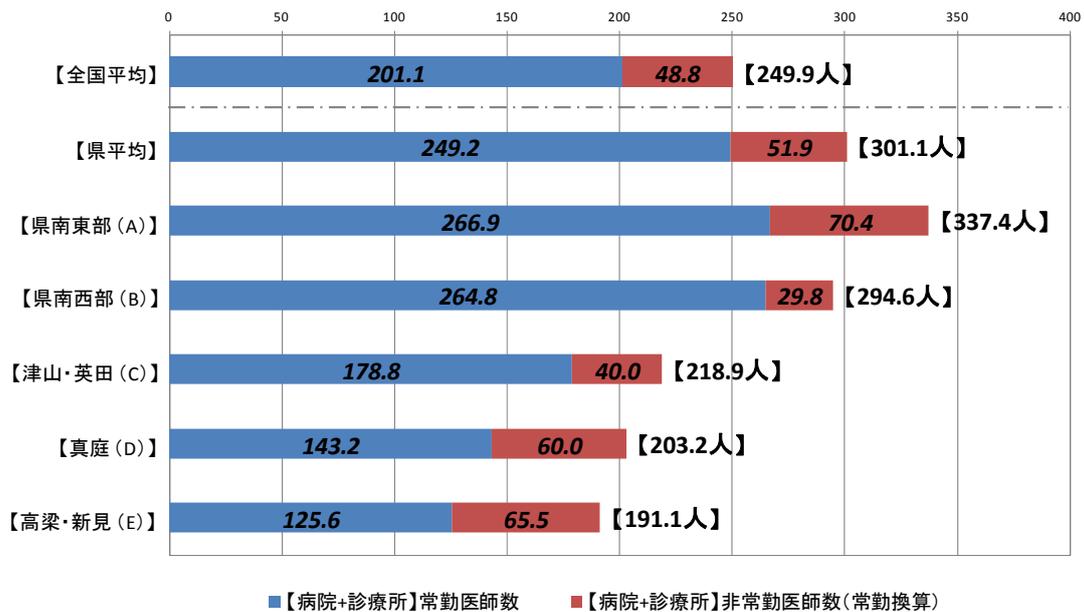


図1 二次保健医療圏ごとの常勤換算医師数（人口10万対）

常勤医師数（人口10万対）は、県平均が249人で県南2圏域は265人前後であった。D 143人（対県平均57%）とE 126人（50%）は県平均（249人）を大きく下回っていた。非常勤（常勤換算）医師数は、D 60人（対県平均116%）とE 66人（126%）が県平均（52人）を上回っていた。

2. 二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算医師数（人口10万対）

病院の常勤換算合計医師数は3,816人で、うち常勤3,072人（構成比80%）、非常勤（常勤換算）744人（20%）（延べ2,656人）であった。診療所の常勤換算合計医師数は2,001人で、うち常勤1,742人（87%）、非常勤259人（13%）（延べ1,634人）であった（表3）。

県平均の常勤換算合計医師数（人口10万対）は、病院198人（構成比66%）、診療所104人（34%）であった。県南2圏域では病院212人（対県平均108%）、診療所106人（102%）であり、県北3圏域では病院120人（60%）、診療所91人（88%）ともに県平均を下回っていた。特にCの病院（117人）はD（139人）を下回っていたが、Cの診療所（101人）はA（121人）に次いで二番目に多かった（図2）。

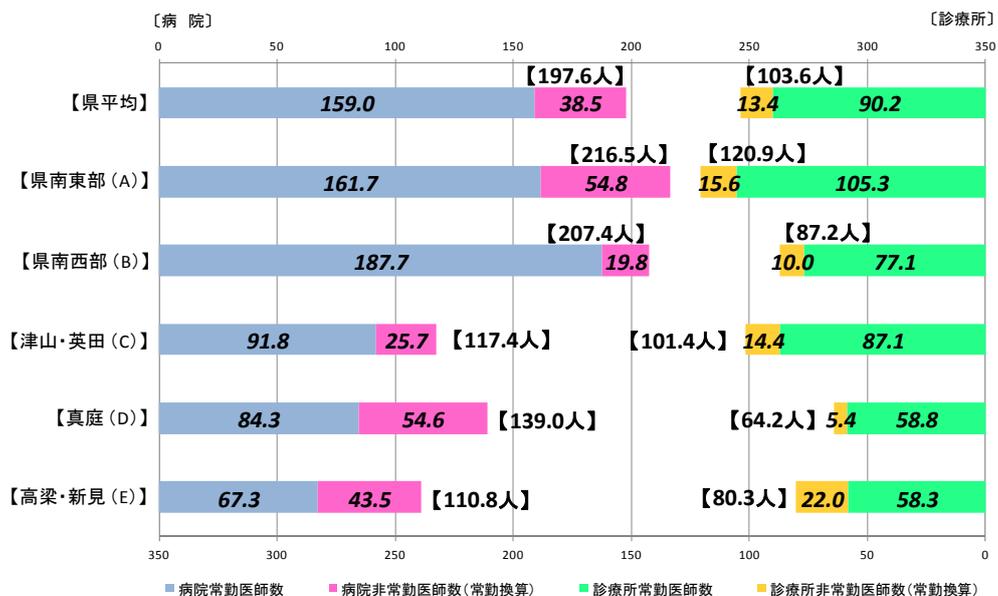


図2 二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算医師数（人口10万対）【全診療科計】

3. 二次保健医療圏ごとの内科系12科、外科系7科、整形外科、小児科、精神科、産婦人科、その他の診療科における病院・診療所別の常勤換算医師数（人口10万対）

県平均の常勤換算合計医師数（人口10万対）を診療科目別で多い順にみると、内科系12科120人（全科に占める割合40%）（うち非常勤23人）、外科系7科30人（10%）（4.3）、整形外科18人（6.1%）（2.7）、小児科17人（5.5%）（3.1）、精神科15人（5.1%）（2.8）、産婦人科12人（4.1%）（2.3）の順で、その他の診療科は88人（29%）（14）であった（図3）。

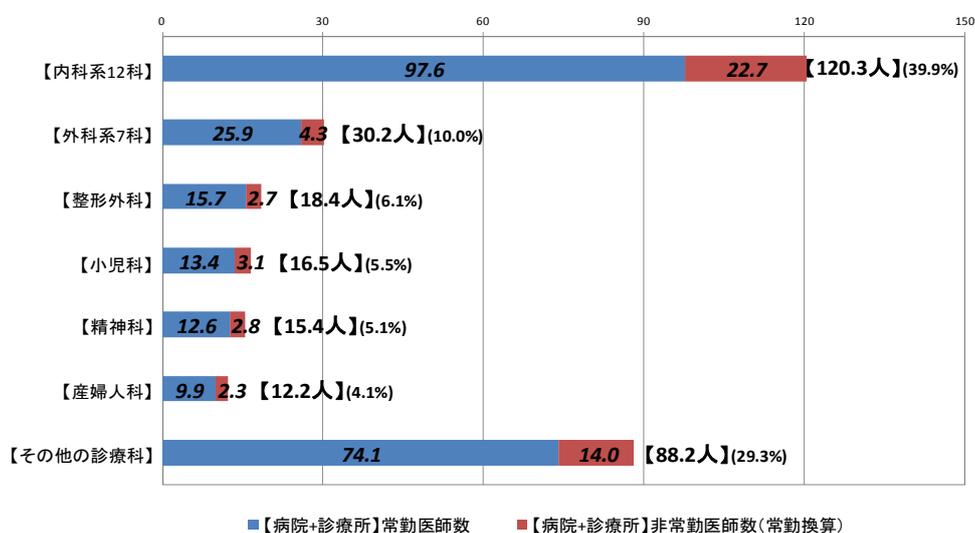


図3 診療科目ごとの常勤換算医師数（人口10万対）

内科系 12 科の常勤換算合計医師数は 2,324 人で、うち常勤 1,886 人（構成比 81%）、非常勤（常勤換算）438 人（19%）（延べ 2,010 人）であった。非常勤比率（県平均）は病院 23%、診療所 14%（表 3）で、医療圏別では B の病院（12%）が低く、E の病院（45%）と診療所（29%）が高かった。

内科系 12 科の常勤換算合計医師数（人口 10 万対）は、県平均が病院 67 人（うち非常勤 15）、診療所 53 人（7.5）、計 120 人（23）であった。病院は B 74 人（うち非常勤 8.6）、A 68 人（20）、D 59 人（20）、C 45 人（14）、E 44 人（20）の順で、診療所は C 64 人（11）、A 61 人（8.7）、E 46 人（13）、B 44 人（4.9）、D 32 人（4.9）の順であった（図 4）。

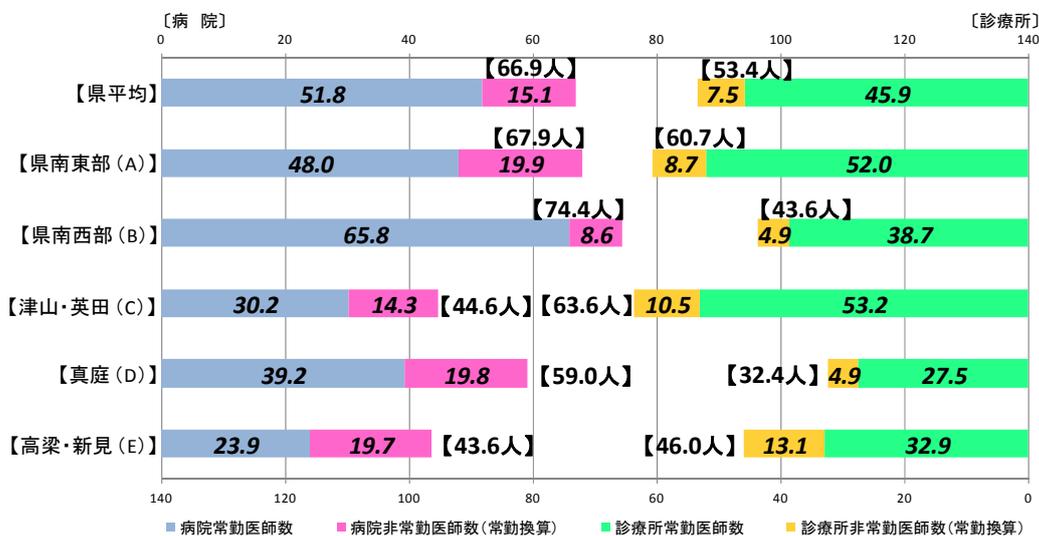


図 4 二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算医師数（人口 10 万対）【内科系 12 科】

外科系 7 科の常勤換算合計医師数は 583 人で、うち常勤 500 人（構成比 86%）、非常勤（常勤換算）83 人（14%）（延べ 345 人）であった。非常勤比率（県平均）は病院 15%、診療所 9.5%（表 3）で、医療圏別では B の病院（7.1%）が低く、D（49%）と E（40%）の病院が高かった。

外科系 7 科の常勤換算合計医師数（人口 10 万対）は、県平均が病院 25 人（うち非常勤 3.8）、診療所 5.1 人（0.5）、計 30 人（4.3）であった。病院は D 31 人（うち非常勤 15）、A 28 人（4.9）、B 24 人（1.7）、E 20 人（8.0）、C 16 人（1.9）の順で、診療所は D 12 人（0）、A 6.1 人（0.5）、C 4.9 人（0.2）、B 3.7 人（0.6）、E 2.0 人（0.5）の順であった。D は病院、診療所ともに最多であった（図 5）。

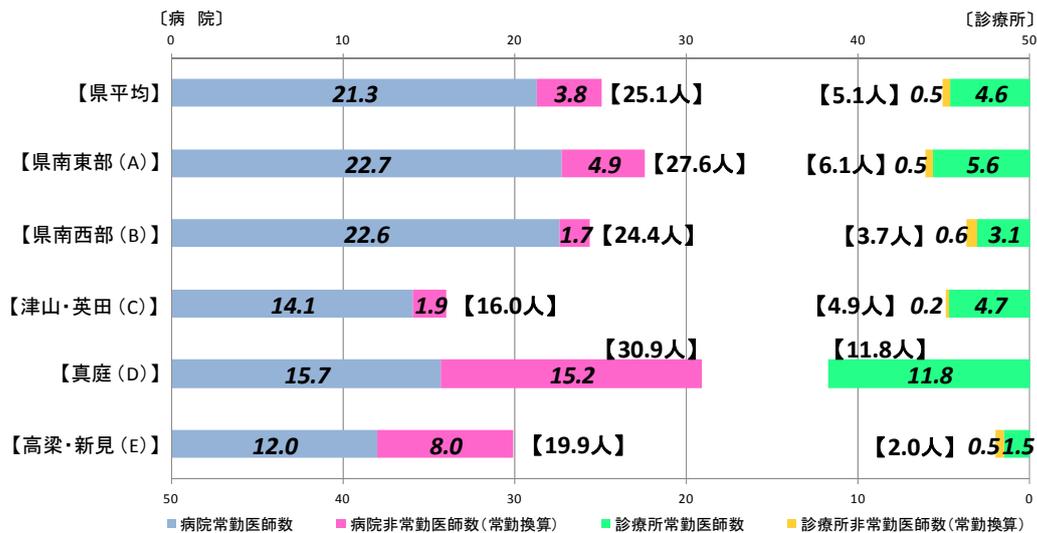


図5 二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算医師数（人口10万対）【外科系7科】

整形外科の常勤換算合計医師数は355人で、うち常勤303人（構成比85%）、非常勤（常勤換算）52人（15%）（延べ263人）であった。非常勤比率（県平均）は病院18%、診療所7.9%（表3）で、医療圏別ではBの病院（9.8%）が低く、Eの病院（29%）が高かった。

整形外科の常勤換算合計医師数（人口10万対）は、県平均が病院12人（うち非常勤2.2）、診療所6.5人（0.5）、計18人（2.7）であった。病院はE15人（うち非常勤4.3）、A14人（3.1）、B11人（1.1）、D8.3人（2.4）、C6.5人（1.3）の順で、診療所はD7.8人（0）、A7.1人（0.6）、B6.6人（0.5）、C4.3人（0.6）、E1.9人（0.4）の順であった。Eは病院で最も多かった一方、診療所では最少であった（図6）。

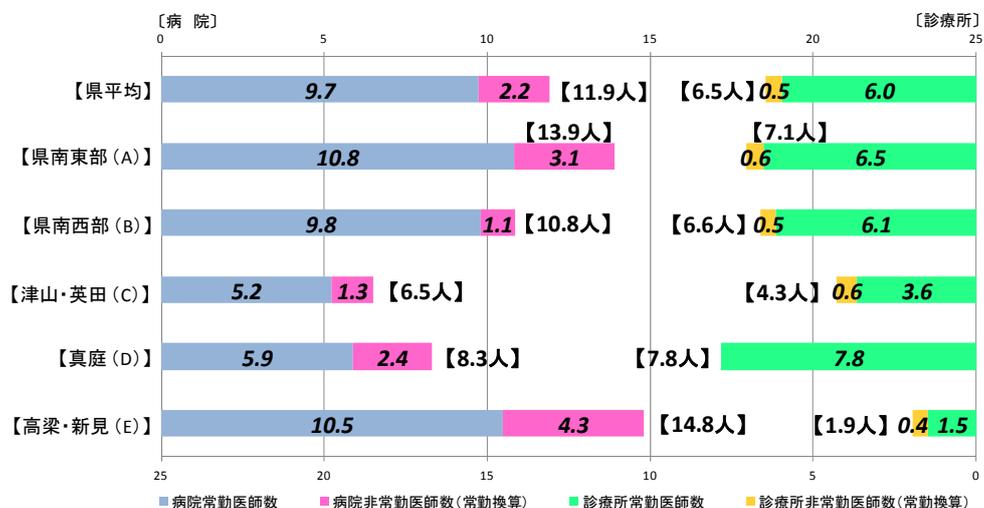


図6 二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算医師数（人口10万対）【整形外科】

小児科の常勤換算合計医師数は319人で、うち常勤259人（構成比81%）、非常勤（常勤換算）60人（19%）（延べ328人）であった。非常勤比率（県平均）は病院22%、診療所13%（表3）で、医療圏別ではBの病院（7.5%）が低く、Eの診療所（52%）が高かった。

小児科の常勤換算合計医師数（人口10万対）は、県平均が病院10人（うち非常勤2.3）、診療所6.2人（0.8）、計17人（3.1）であった。病院はA13人（うち非常勤4.0）、B10人（0.8）、C4.9人（0.7）、E3.3人（0.3）、D2.4人（2.4）の順で、診療所はE9.2人（4.8）、C8.5人（0.6）、A6.6人（0.6）、B5.1人（0.8）、D2.0人（0）の順であった（図7）。

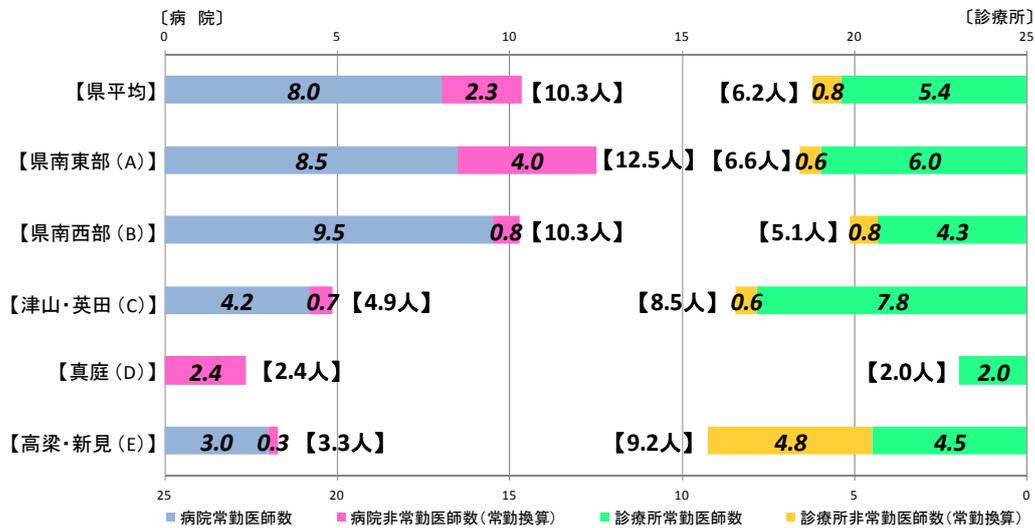


図7 二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算医師数（人口10万対）【小児科】

精神科の常勤換算合計医師数は297人で、うち常勤243人（構成比82%）、非常勤（常勤換算）54人（18%）（延べ297人）であった。非常勤比率（県平均）は病院19%、診療所16%（表3）であった。

精神科の常勤換算合計医師数（人口10万対）は、県平均が病院11人（うち非常勤2.1）、診療所4.3人（0.7）、計15人（2.8）であった。病院はA14人（うち非常勤2.9）、D14人（1.8）、E12人（1.9）、C9.1人（2.3）、B7.8人（1.2）の順で、診療所はA6.2人（1.0）、E4.2人（1.2）、B3.1人（0.4）、C1.1人（0.1）、D0.3人（0.3）の順であった（図8）。

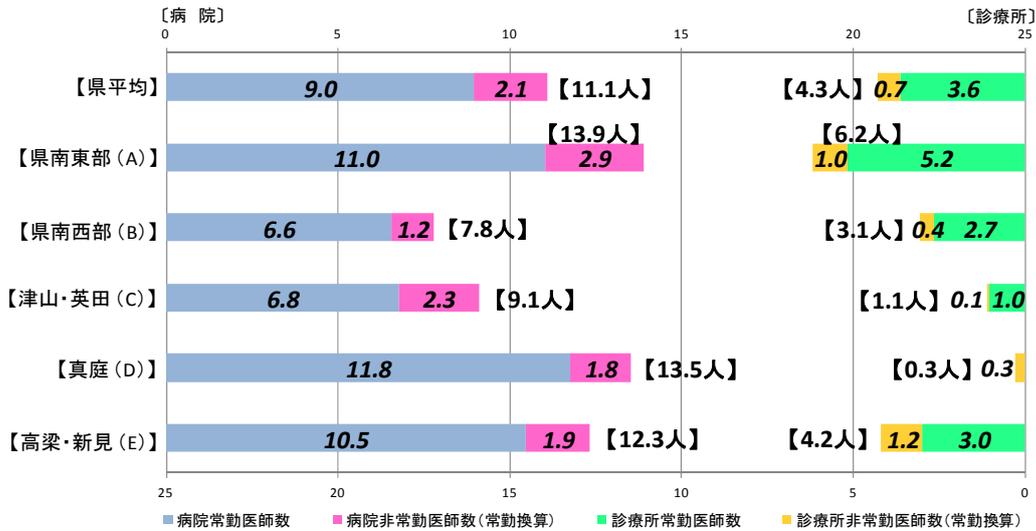


図8 二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算医師数（人口10万対）【精神科】

産婦人科の常勤換算合計医師数は235人で、うち常勤191人（構成比81%）、非常勤（常勤換算）44人（19%）（延べ132人）であった。非常勤比率（県平均）は病院20%、診療所18%（表3）であった。

産婦人科の常勤換算合計医師数（人口10万対）は、県平均が病院6.8人（うち非常勤1.3）、診療所5.4人（1.0）、計12人（2.3）であった。病院はA8.3人（2.1）、B6.1人（0.6）、D6.0人（2.1）、C4.7人（0.5）、E1.7人（0.2）の順で、診療所はE7.0人（1.0）、A6.6人（1.2）、C4.5人（0.3）、B4.2人（0.9）、D0人（0）の順であった。Eは病院で最も少なかった一方、診療所では最多であった（図9）。

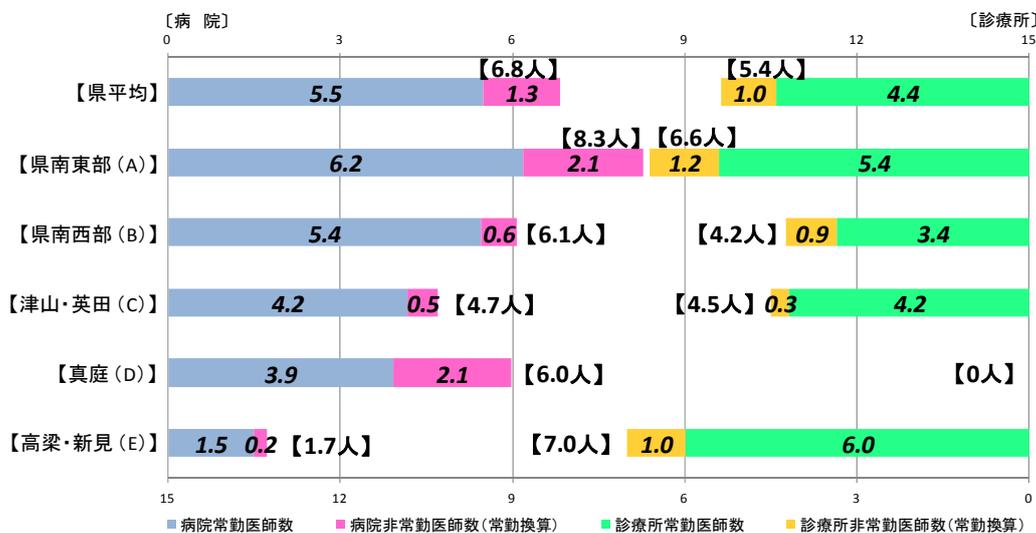


図9 二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算医師数（人口10万対）【産婦人科】

その他の診療科の常勤換算合計医師数は1,703人で、うち常勤1,432人(構成比84%)、非常勤(常勤換算)271人(16%)(延べ1,010人)であった。非常勤比率(県平均)は病院18%、診療所11%(表3)で、医療圏別ではD(59%)とE(60%)の病院が高かった。

その他の診療科の常勤換算合計医師数(人口10万対)は、県平均が病院65人(うち非常勤12)、診療所23人(2.4人)、計88人(14)であった。病院はB74人(5.7)、A72人(18)、C32人(4.6)、D19(11)、E15人(9.1)の順で、診療所はA28人(3.1)、B21人(1.9)、C15人(2.1)、D10人(0.2)、E9.8人(0.8)の順であった(図10)。

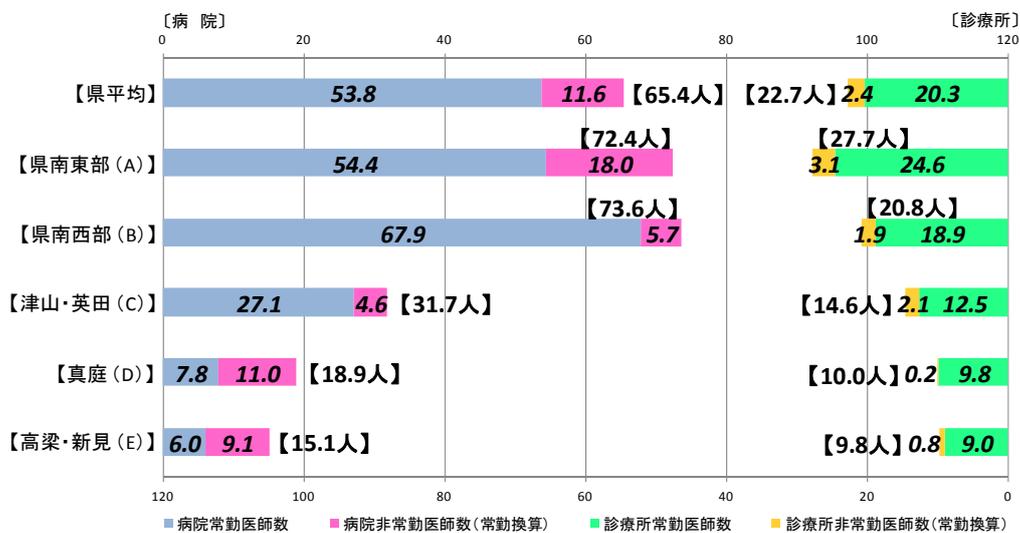


図10 二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算医師数(人口10万対)【その他の診療科】

4. 二次保健医療圏ごとの内科系12科、整形外科、小児科、産婦人科における常勤換算医師数対比(65歳以上3万対・15歳未満1万対・出生数1千対)

内科系12科では、65歳以上人口3万人当たりの常勤換算医師数の県平均対比は、人口10万人当たりと比べてAが6.2%(107→113%)、Bが2.7%(98→101%)上昇した。一方、Cは▲11%(90→79%)、Dは▲17%(76→59%)、Eは▲22%(75→53%)と減少し、県南と県北3圏域の内科系医療の格差が拡大した(図11)。

整形外科では、65歳以上人口3万人当たりの常勤換算医師数の県平均対比は、人口10万人当たりと比べてAが6.6%(114→121%)、Bが2.5%(95→98%)上昇した。一方、Cは▲7.3%(59→51%)、Dは▲19%(88→69%)、Eは▲26%(91→65%)と減少し、県南と県北3圏域の整形外科医療の格差が拡大した(図12)。

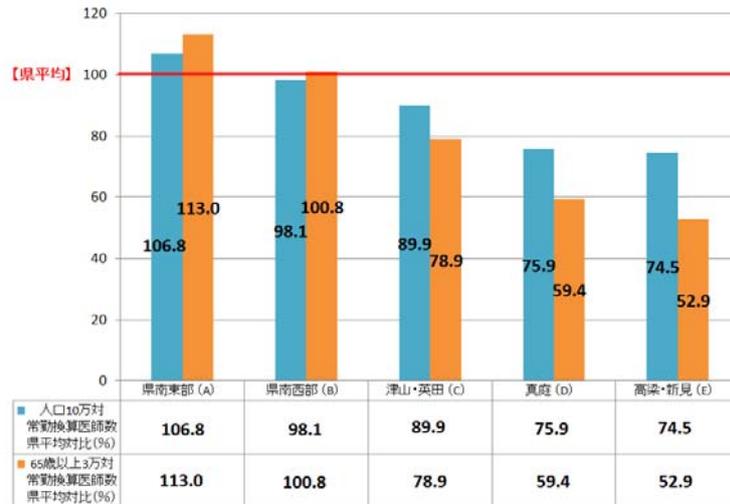


図 11 二次保健医療圏ごとの常勤換算医師数対比 (65歳以上3万対)【内科系12科】

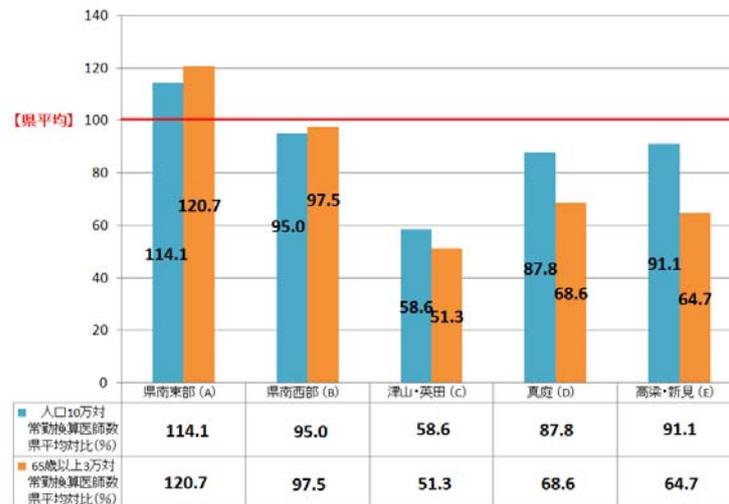


図 12 二次保健医療圏ごとの常勤換算医師数対比 (65歳以上3万対)【整形外科】

小児科では、15歳未満人口1万人当たりの常勤換算医師数の県平均対比は、人口10万人当たりと比べてCが4.7% (81→85%)、Dが3.8% (26→30%)、Eが23% (76→99%) 上昇した。一方、Aは▲1.0% (116→115%)、Bは▲3.1% (93→90%) と減少し、県南と県北3圏域の小児科医療の格差が縮小した (図 13)。

産婦人科では、出生数1千人当たりの常勤換算医師数の県平均対比は、人口10万人当たりと比べてCが9.0% (75→84%)、Dが20% (49→69%)、Eが37% (71→108%) 上昇した。一方、Aは▲3.6% (122→119%)、Bは▲3.0% (84→81%) と減少し、県南と県北3圏域の産婦人科医療の格差が縮小した (図 14)。

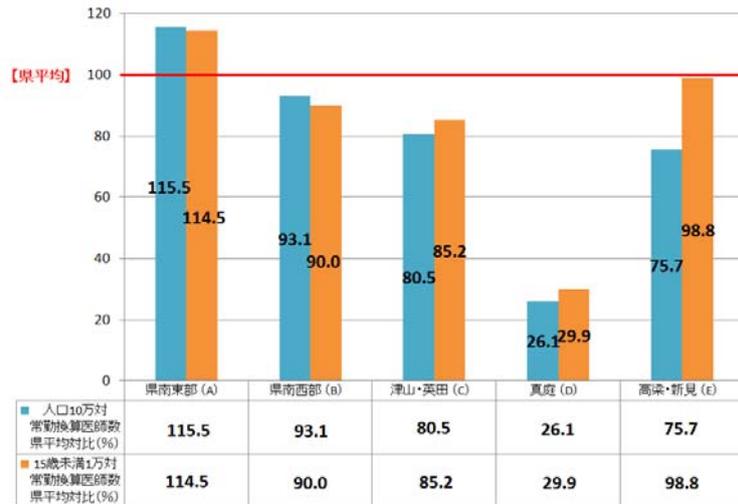


図 13 二次保健医療圏ごとの常勤換算医師数対比 (15歳未満1万対)【小児科】

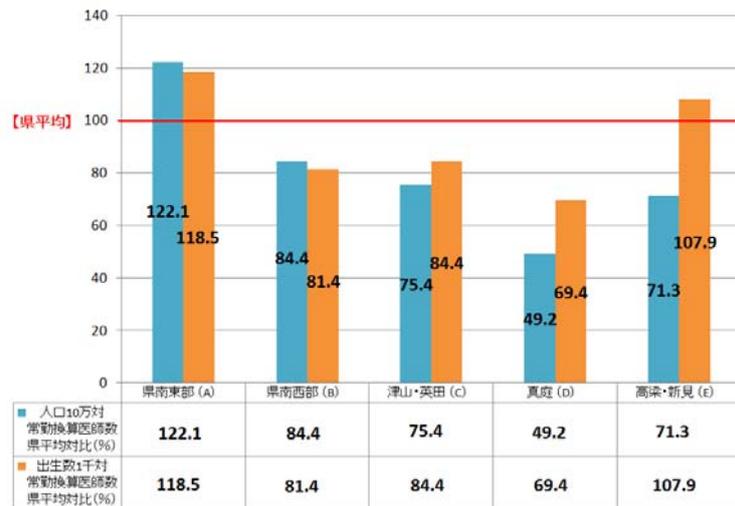


図 14 二次保健医療圏ごとの常勤換算医師数対比 (出生数1千対)【産婦人科】

IV. 考察

医療機能情報は、住民や患者による医療機関の適切な選択を支援することを目的に、岡山県が毎年収集し、インターネットを通じて情報提供しているものであり、医師の偏在状況を把握するためにこのデータベースを活用したのは、初めての取組である。

厚生労働省が実施した「平成22年医師・歯科医師・薬剤師調査」では、岡山県内の医療施設に従事する医師数は5,259人(平成22年12月31日現在)⁹⁾であったが、今回の調査では、常勤が4,814人、非常勤(常勤換算)が1,003人で、常勤換算合計医師数は5,817人(平成23年10月1日現在)(表3)であった。558人(約10%)の差が生じてい

るが、これは調査時期の違いによるものと、常勤医師が他の医療施設で宿日直を行い、非常勤としても重ねて積算されていること、大学やへき地医療拠点病院、社会医療法人などから派遣された医師が、医療施設に非常勤として勤務し積算されていることなどによるものと考えられる。

二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算医師数（人口 10 万対）を県平均と対比した結果をまとめると、表 4 のとおりとなった。

表 4 二次保健医療圏ごとの常勤換算医師数（人口 10 万対）の県平均対比

二次保健医療圏	(単位:%)															
	全診療科計 (図2)		内科系12科 (図4)		外科系7科 (図5)		整形外科 (図6)		小児科 (図7)		精神科 (図8)		産婦人科 (図9)		その他の診療科 (図10)	
	病院	診療所	病院	診療所	病院	診療所	病院	診療所	病院	診療所	病院	診療所	病院	診療所	病院	診療所
県南東部 (A)	◎ (110)	◎ (117)	○ (101)	◎ (114)	◎ (110)	◎ (120)	◎ (117)	○ (109)	◎ (121)	○ (106)	◎ (125)	◎ (144)	◎ (121)	◎ (123)	◎ (111)	◎ (122)
県南西部 (B)	○ (105)	△ (84)	◎ (111)	△ (82)	○ (97)	△ (73)	○ (91)	○ (102)	○ (99)	△ (83)	△ (70)	△ (71)	△ (89)	△ (79)	◎ (113)	○ (91)
津山・英田 (C)	▼ (59)	○ (98)	▼ (67)	◎ (119)	▼ (64)	○ (95)	▼ (55)	▼ (66)	▼ (47)	◎ (136)	△ (82)	▼ (26)	▼ (69)	△ (84)	▼ (48)	▼ (64)
真庭 (D)	△ (70)	▼ (62)	△ (88)	▼ (61)	◎ (123)	◎ (231)	△ (70)	◎ (121)	▼ (23)	▼ (32)	◎ (122)	▼ (7)	△ (88)	▼ (0)	▼ (29)	▼ (44)
高梁・新見 (E)	▼ (56)	△ (77)	▼ (65)	△ (86)	△ (79)	▼ (40)	◎ (124)	▼ (30)	▼ (32)	◎ (149)	◎ (111)	○ (98)	▼ (25)	◎ (131)	▼ (23)	▼ (43)

※「◎」：県平均対比 110%以上
「○」：県平均対比 90%以上～110%未満
「△」：県平均対比 70%以上～90%未満
「▼」：県平均対比 70%未満

A は、病院、診療所ともに全ての区分で県平均を上回っていた。B で県平均を上回っていたのは、病院の全診療科計・内科系 12 科・その他の診療科と、診療所の整形外科のみであった。C の病院は全て県平均を下回っており、診療所の内科系 12 科と小児科のみが上回っていた。D では、外科系 7 科が病院、診療所ともに県平均を上回っていたほか、病院の精神科と診療所の整形外科が上回っているのみであった。E で県平均を上回っていたのは、病院の整形外科・精神科と、診療所の小児科・産婦人科のみであった。

内科系 12 科の常勤換算合計医師数（人口 10 万対）は、C が診療所（64 人）では最多であったが、病院（45）では E（44）に次いで少なかった。外科系 7 科は、D が病院（31）、診療所（12）ともに最多で、病院では C（16）が最少であった。整形外科は、E が病院（15）では最多であったが、診療所（1.9）では最少で、D（7.8）が診療所で最多であった。小

児科は、Dが病院（2.4）、診療所（2.0）ともに最少で、診療所ではE（9.2）が最多であった。Dでは内科医などが小児対応を行いカバーしているものと考えられる。精神科は、病院ではB（7.8）が最少で、A（14）に次いで多かったのはD（14）、E（12）であった。産婦人科は、Eが病院（1.7）では最少であったが、診療所（7.0）では最多であった。その他の診療科は、県北3圏域の病院がいずれも県平均の半数以下であった（図4～10）。

以上のように、県南と県北3圏域の地域偏在が顕著に表れており、診療科による偏在も明らかとなった。

岡山県の非常勤（常勤換算）医師数は1,003人（延べ4,290人）で、医療圏別では、A 638人（延べ2,258）、B 213人（延べ1,216）、C 77人（延べ414）、E 44人（延べ238）、D 31人（164人）の順であった（表3）。非常勤（常勤換算）医師数（人口10万対）は、県平均52人（非常勤比率17%）に対し、多い順にA 70人、E 66人、D 60人、C 40人、B 30人であった。非常勤比率は多い順にE（34%）、D（30%）、A（21%）、C（18%）、B（10%）であった（図15）。

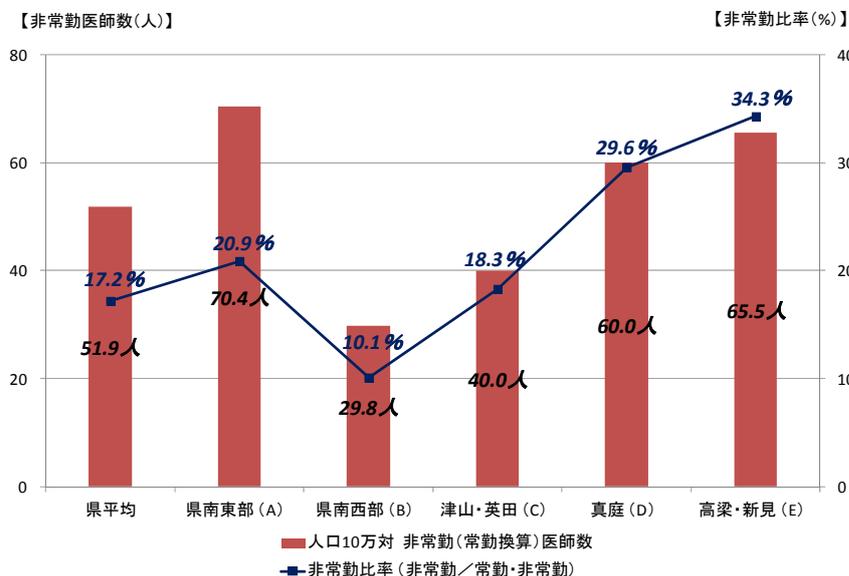


図15 非常勤(常勤換算)医師数（人口10万対）と非常勤比率

非常勤医師は、常勤医師による医療の供給不足を補っているものであり、医師不足数を示す一つの指標となり得る。E、D、Aでは、非常勤（常勤換算）医師数（人口10万対）と非常勤比率がともに高く、大学、公的医療機関、へき地医療拠点病院、社会医療法人

などからの非常勤派遣によって支えられているものと思われる。Aの非常勤医師数が多い要因としては、①岡山市内の大規模病院から圏域内の医療機関に多くの医師が派遣されていること、②大学病院の非常勤医師は延べ280人、常勤換算で206人（人口10万対23人）であり、週4日弱勤務している非常勤医師が多いことが考えられる。今後、非常勤（常勤換算）医師数と医師不足数の相関性をより深く検証したい。

我々は、今後とも「医療機能情報」を活用した調査を継続していく予定であり、医師の偏在や支援の実態を適切に把握し、人材の適正配置や養成に利用したい。

V. 結語

1. 岡山県の二次保健医療圏ごとの常勤医師数と非常勤（常勤換算）医師数を病院と診療所に分けて診療科目別に人口10万対で検討した。岡山県医療機能情報提供システム「おかやま医療情報ネット」³⁾のデータベースを用いた。
2. 県南2圏域（A、B）の医師数（318人）は、県北3圏域（C、D、E）（210）の1.5倍であった。二次保健医療圏ごとでは、県南東部（A）（337）、県南西部（B）（295）、津山・英田（C）（219）、真庭（D）（203）、高梁・新見（E）（191）の順であった。
3. 病院ではA（217）、B（207）、D（139）、C（117）、E（111）の順で、診療所ではA（121）、C（101）、B（87）、E（80）、D（64）の順であった。
4. 診療科目別では、内科系12科（120）が一番多く全体の40%を占め、次いで外科系7科（30）、整形外科（18）、小児科（17）、精神科（15）、産婦人科（12）の順であった。
5. 県北3圏域のうち、Cは診療所の内科系12科（64）で最多、Dは病院の外科系7科（31）、診療所の外科系7科（12）と整形外科（7.8）で最多、Eは病院の整形外科（15）、診療所の小児科（9.2）と産婦人科（7.0）で最多であり、診療科による偏在がみられた。
6. 二次保健医療圏ごとの高齢化率を考慮すると、県北3圏域では内科系医師と整形外科医は人口10万対比よりもさらに不足している状況であった。小児比率や出生率を考慮すると、小児科医や産婦人科医の県北3圏域における不足度は人口10万対比よりも改善した。
7. 非常勤医師は、常勤医師による医療の供給不足を補っているものであり、医師不足数

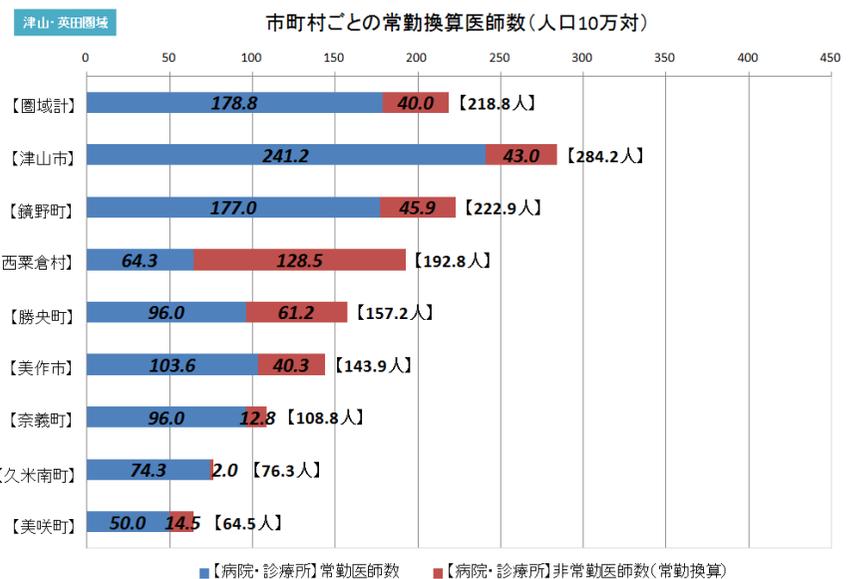
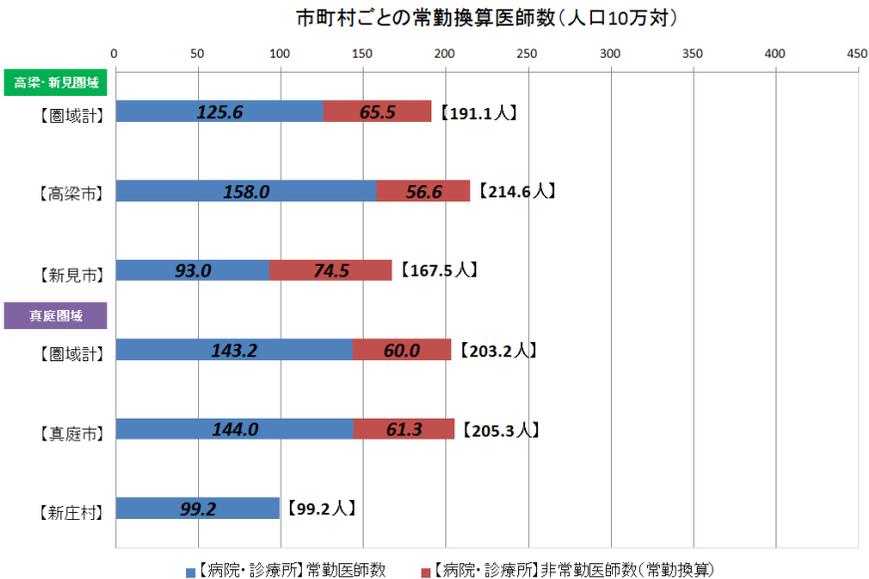
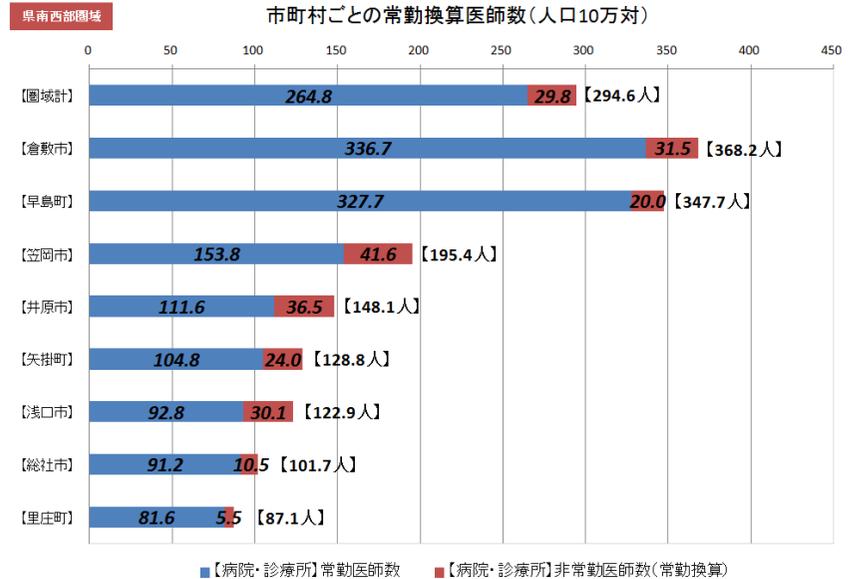
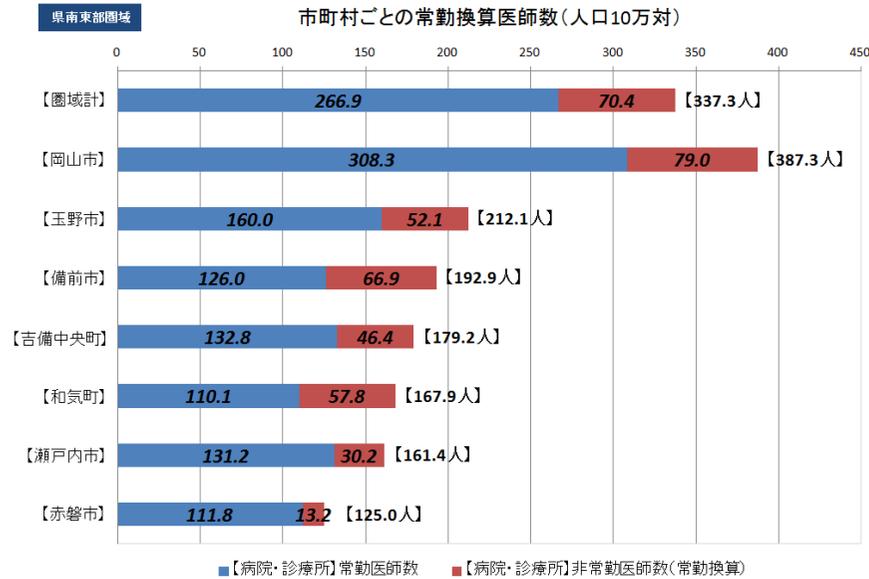
を示す一つの指標となり得る。非常勤（常勤換算）医師数（人口 10 万対）と非常勤比率がともに高い E（66 人，34%）、D（60 人，30%）、A（70 人，21%）では、大学などからの非常勤派遣によって支えられているものと思われ、今後、非常勤（常勤換算）医師数と医師不足数の相関性をより深く検証したい。

8. 岡山県下の医師の配置や支援状況が把握できたので、これらを利用してさらに効率的な人材配置や養成に利用したい。

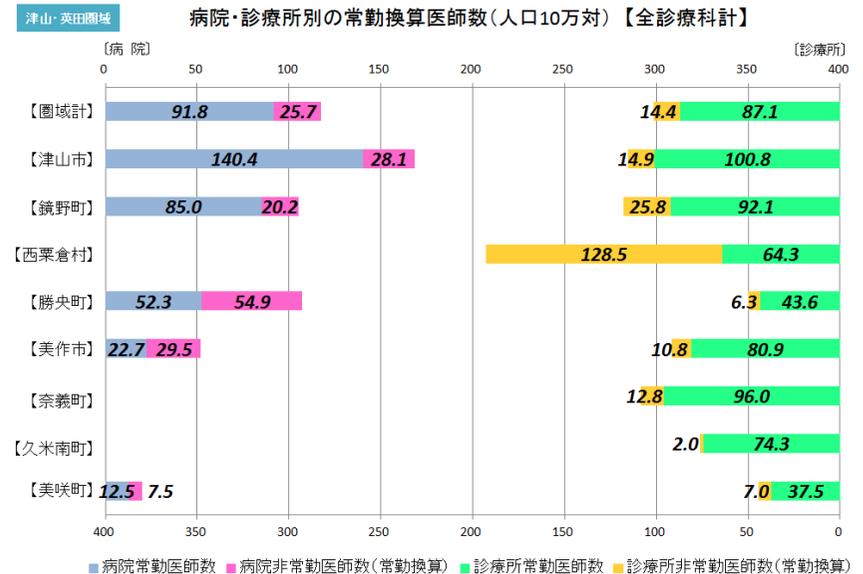
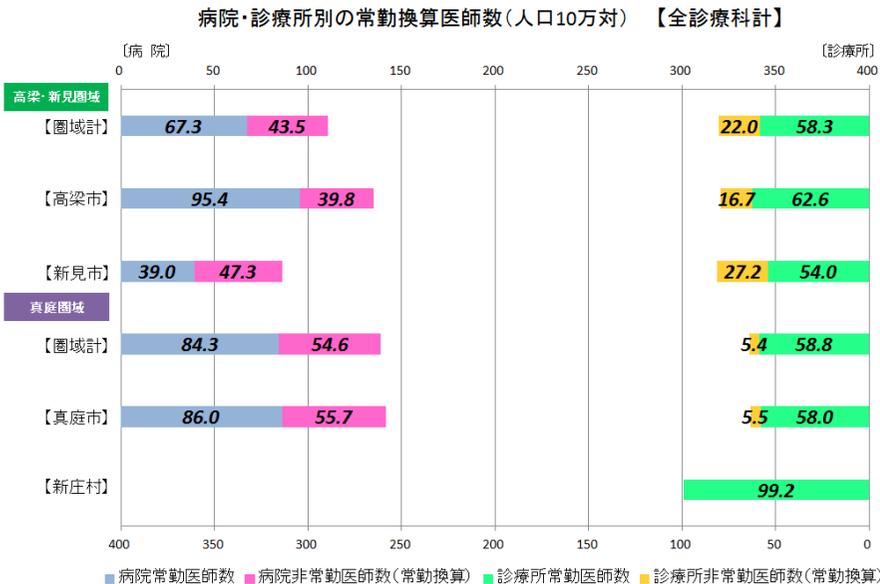
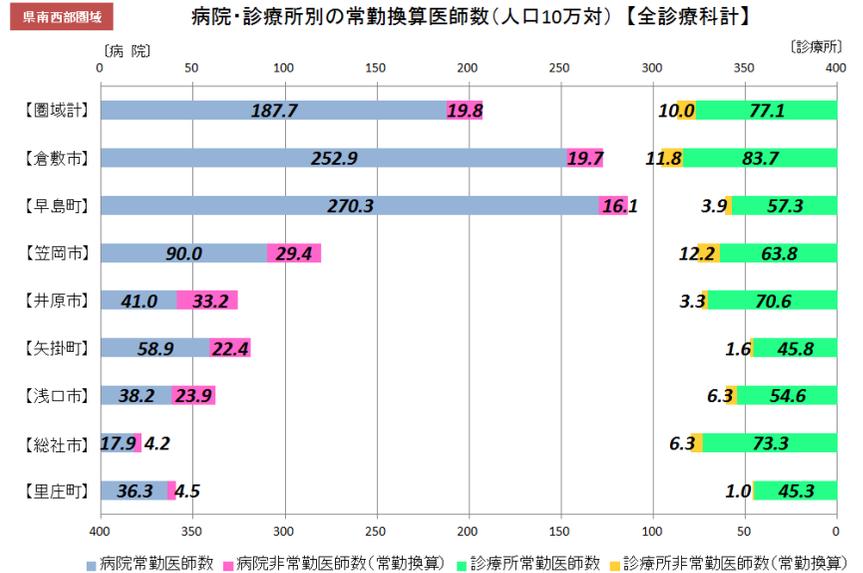
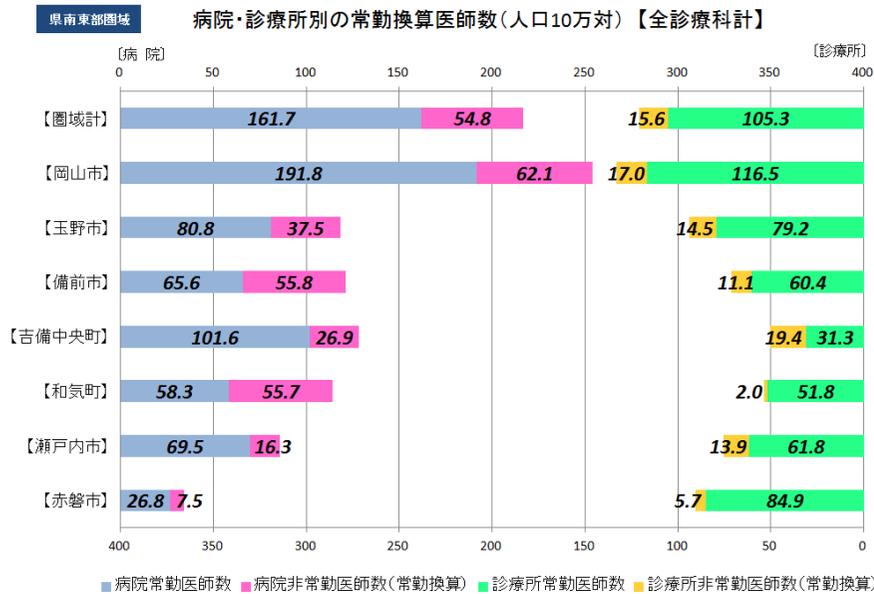
<文献>

- 1) 石川雅俊，柏原純一，高橋泰：「二次医療圏データベース」の開発と各都道府県における二次医療圏からみた勤務医の地域偏在状況の分析：日本医療経営学会誌 5 巻 1 号（2011.10）
- 2) 伊藤嘉高，村上正泰，佐藤慎哉，嘉山孝正：山形県一般病院における医師不足の現況：山形医学 29 巻 1 号（2011.2）
- 3) 岡山県医療機能情報提供システム「おかやま医療情報ネット」
<http://www.qq.pref.okayama.jp>
- 4) 医療法第 25 条第 1 項の規定に基づく立入検査要綱（厚生労働省医政局）別紙「常勤医師等の取扱いについて」
http://www.ourei.mhlw.go.jp/cgi-bin/t_docframe2.cgi?MODE=tsuchi&DMODE=SEARCH&SMODE=NORMAL&KEYWORD=%88%e3%97%c3%96%40%91%e625%8f%f0%91%e61%8d%80%82%cc%8b%4b%92%e8%82%c9%8a%ee%82%c3%82%ad%97%a7%93%fc%8c%9f%8d%b8%97%76%8d%6a&EFSNO=1110&FILE=FIRST&POS=0&HITSU=5
- 5) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（平成 24 年 3 月 31 日現在）
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&listID=000001097772&requestSender=dsearch
- 6) 厚生労働省「人口動態調査」（平成 23 年 1 月～12 月）
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&listID=000001101892&requestSender=dsearch
- 7) 「岡山県保健医療計画」
<http://www.pref.okayama.jp/page/detail-90978.html>
- 8) 厚生労働省「平成 23 年医療施設調査・病院報告」（平成 23 年 10 月 1 日現在）
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_&tstatCode=0000101030908&requestSender=dsearch
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_&tstatCode=0000101030749&requestSender=dsearch
- 9) 厚生労働省「平成 22 年医師・歯科医師・薬剤師調査」（平成 22 年 12 月 31 日現在）
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_&tstatCode=0000101030962&requestSender=dsearch

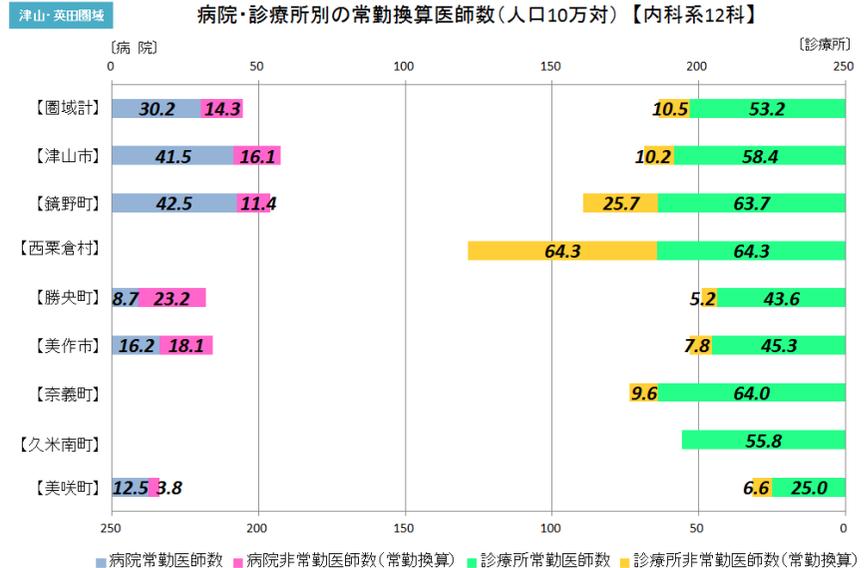
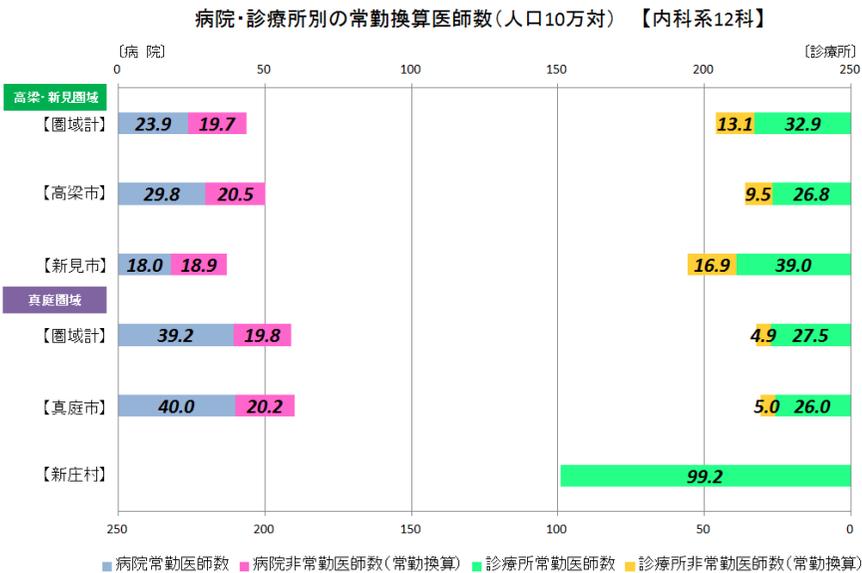
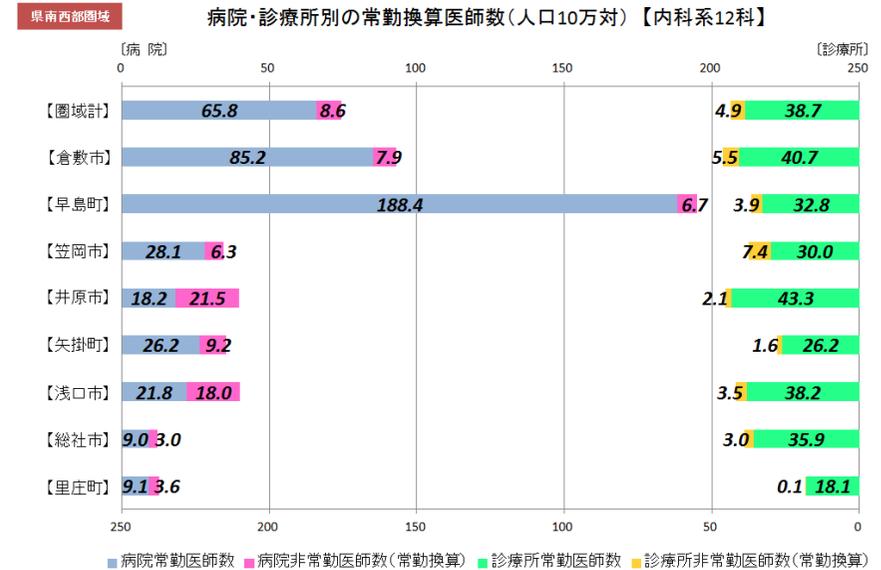
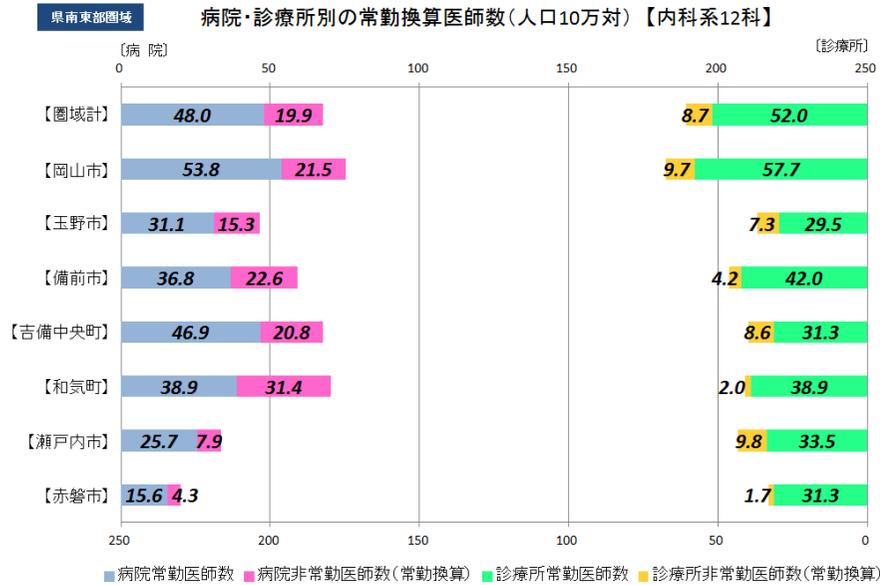
【参考】市町村ごとの（病院・診療所別）常勤換算医師数（人口10万対）



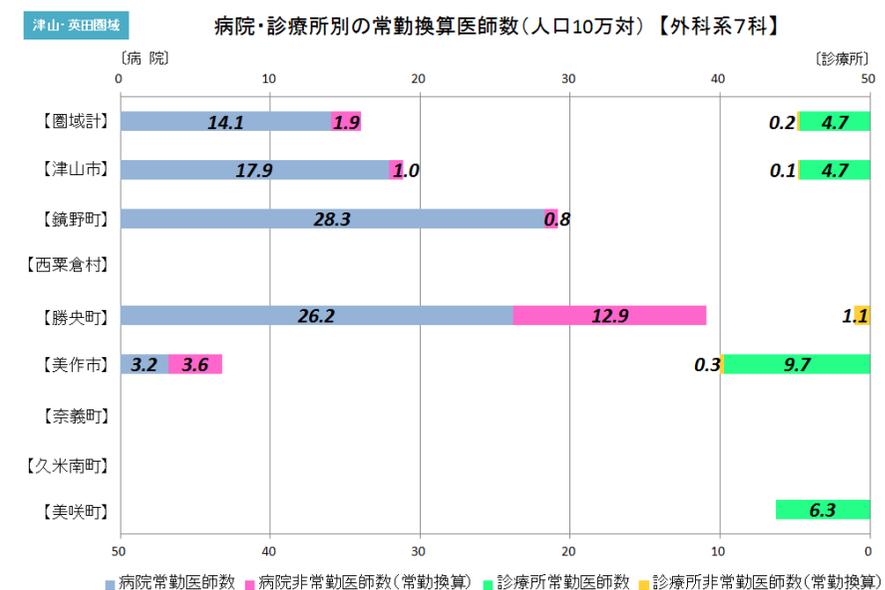
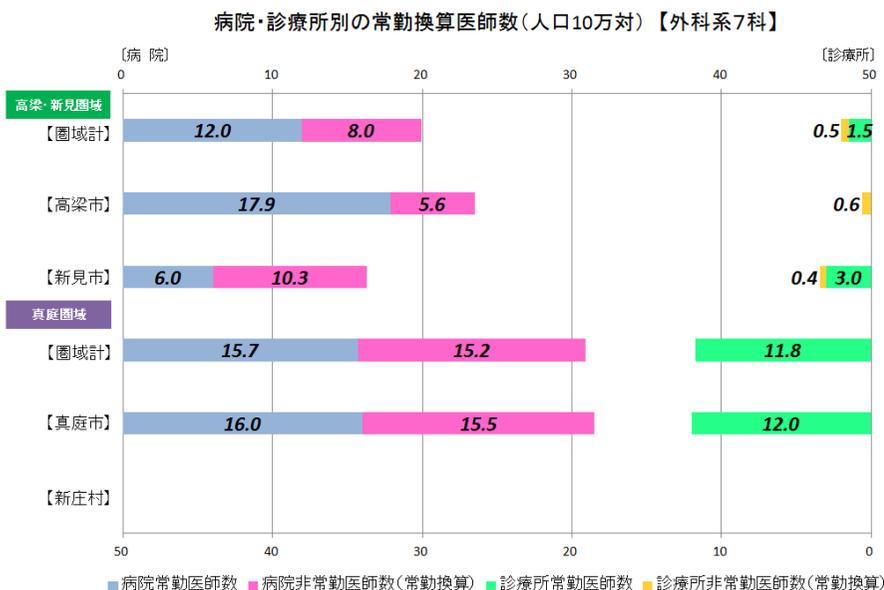
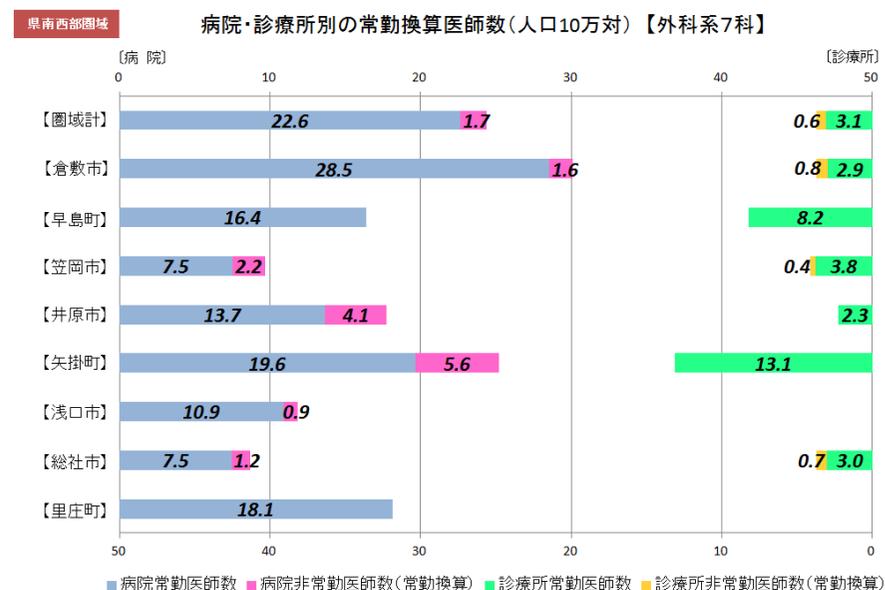
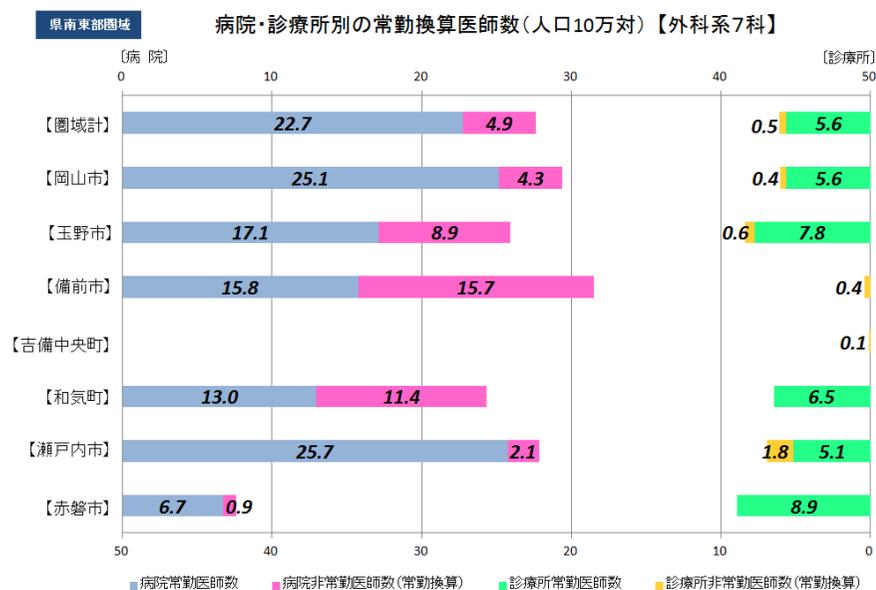
【参考】市町村ごとの（病院・診療所別）常勤換算医師数（人口10万対）



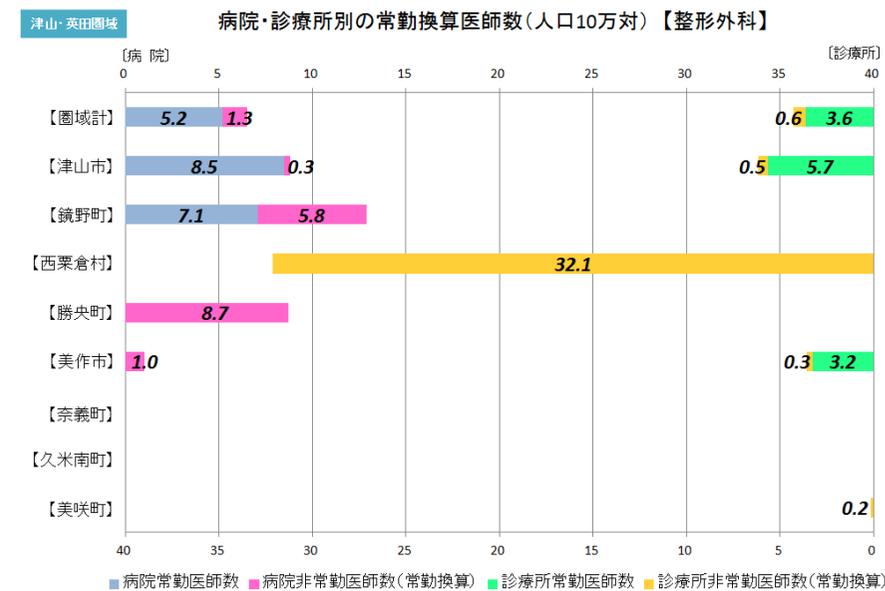
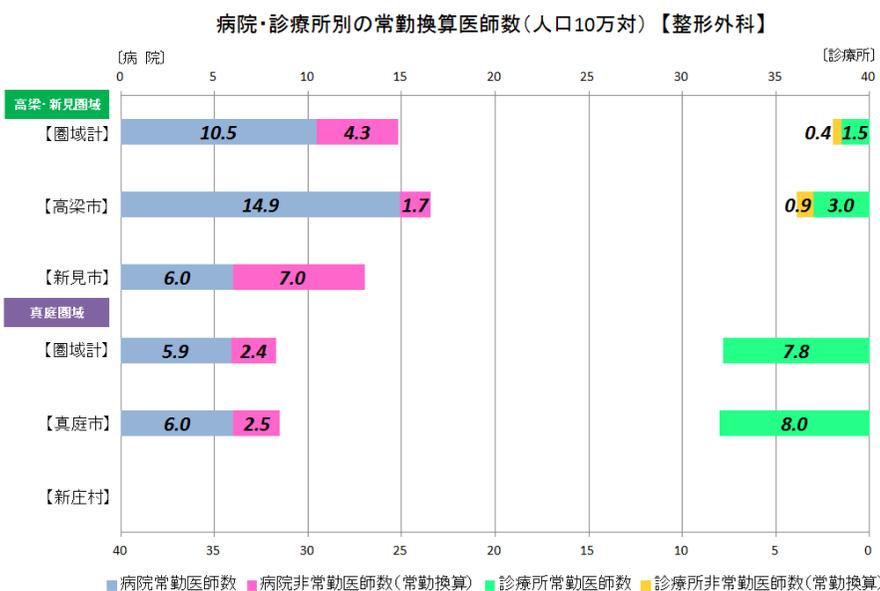
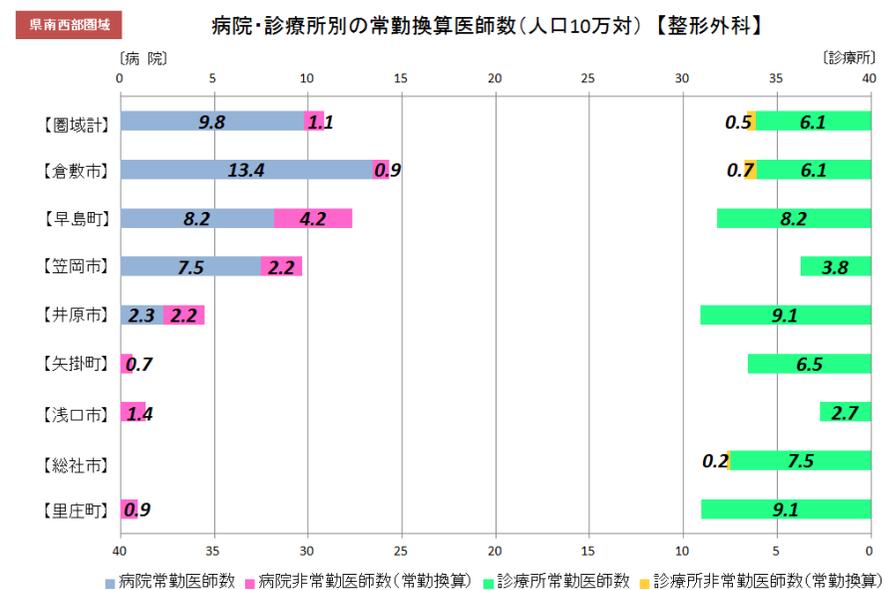
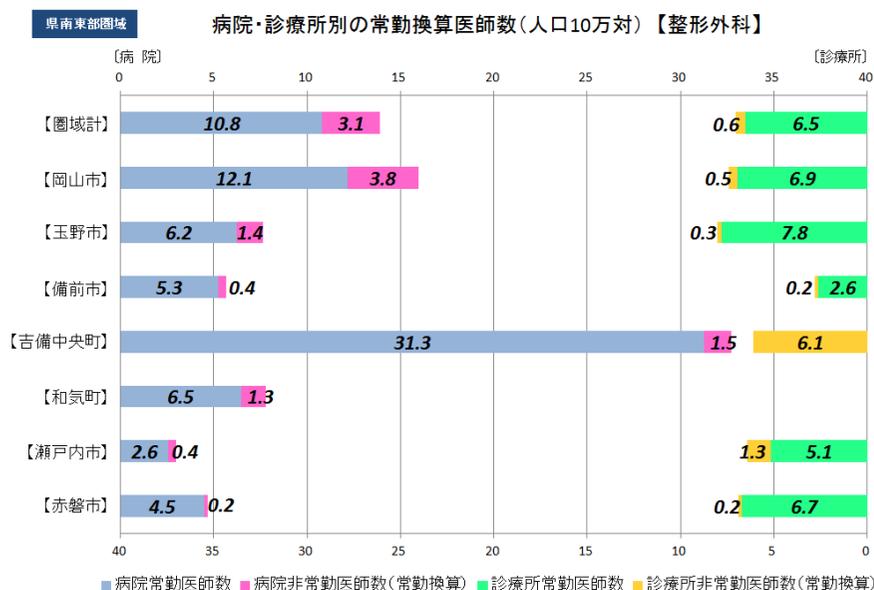
【参考】市町村ごとの（病院・診療所別）常勤換算医師数（人口10万対）



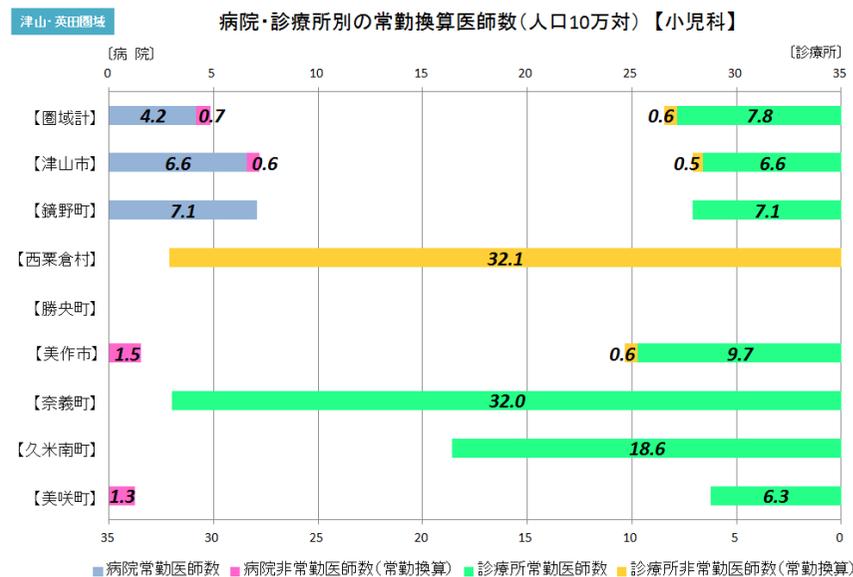
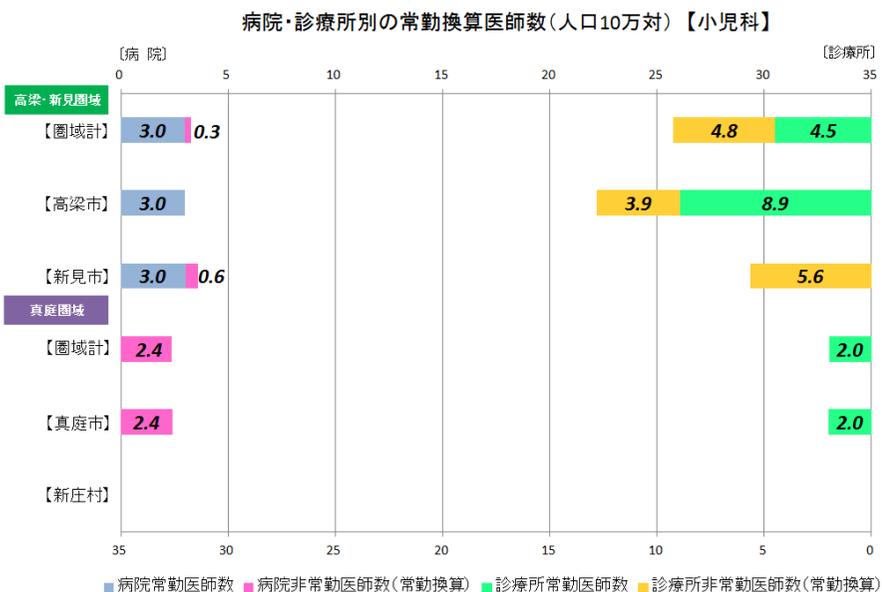
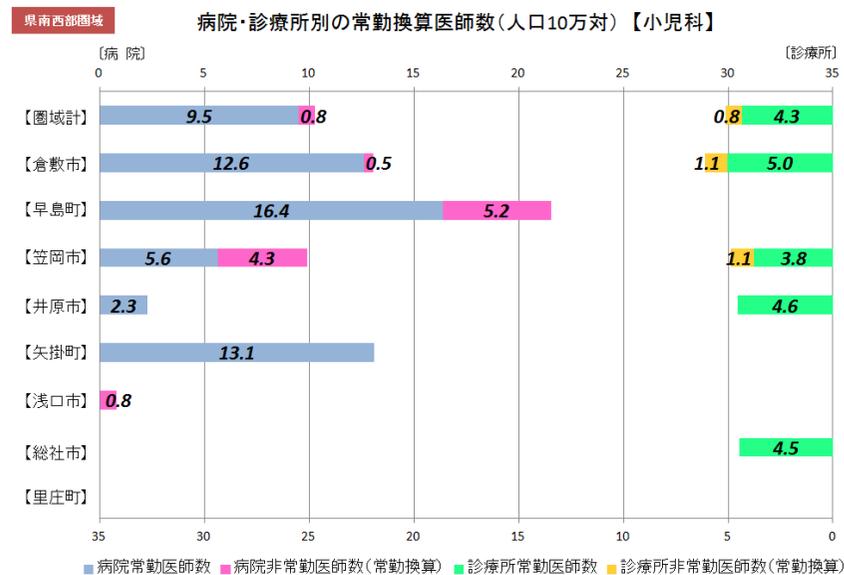
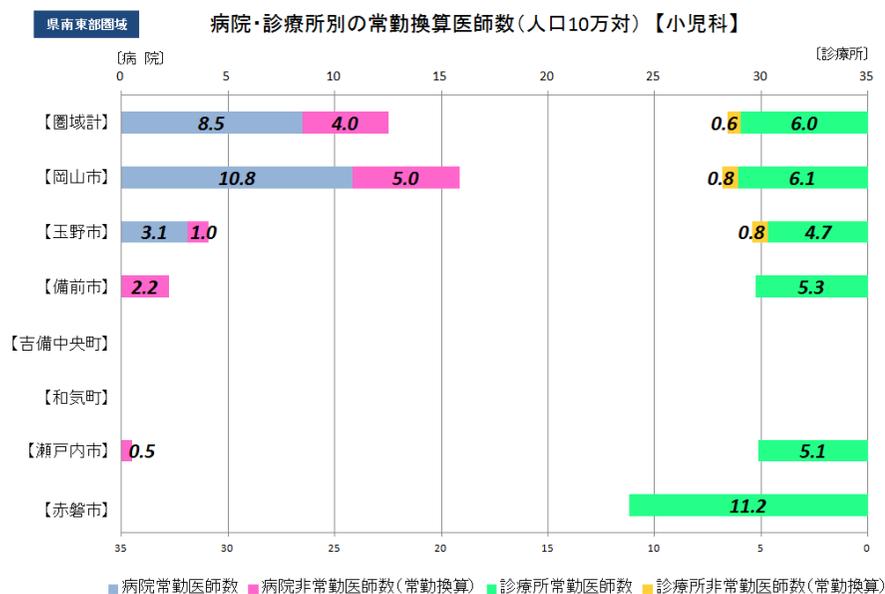
【参考】市町村ごとの（病院・診療所別）常勤換算医師数（人口10万対）



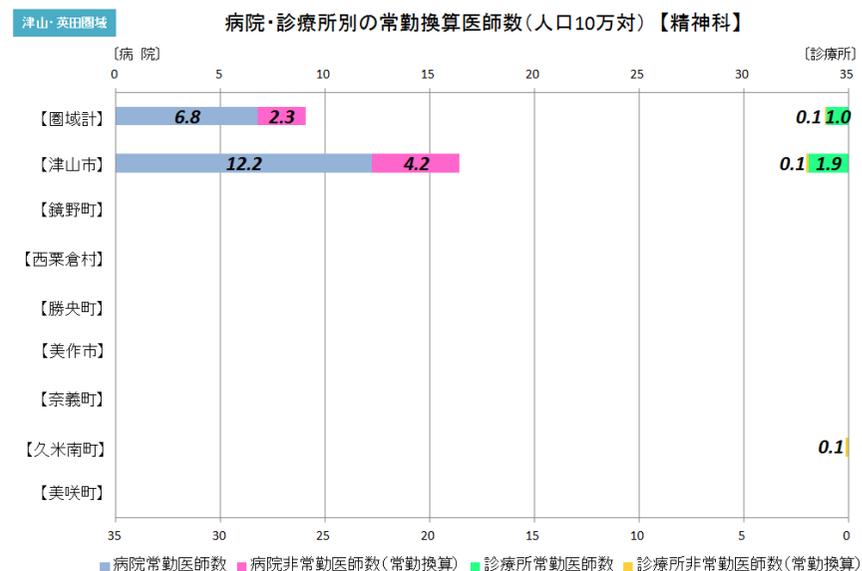
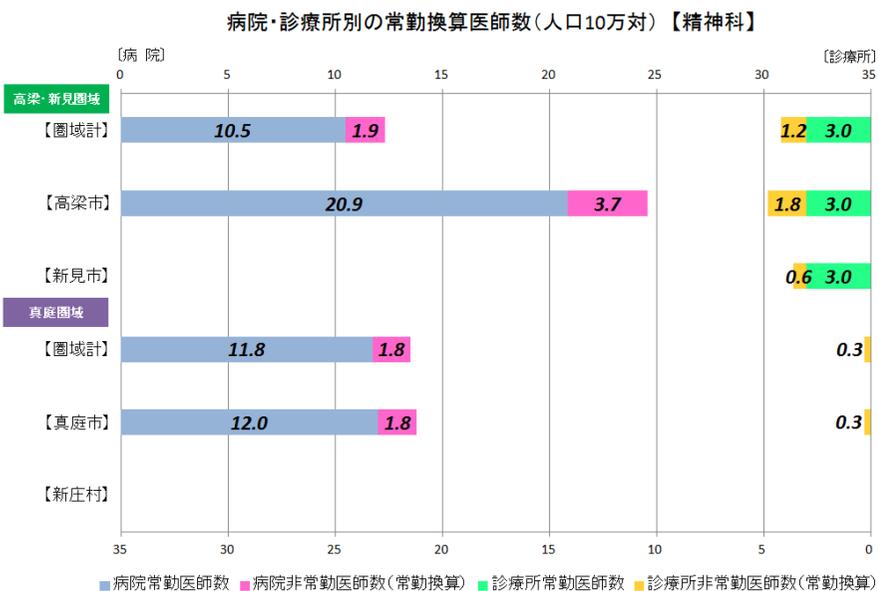
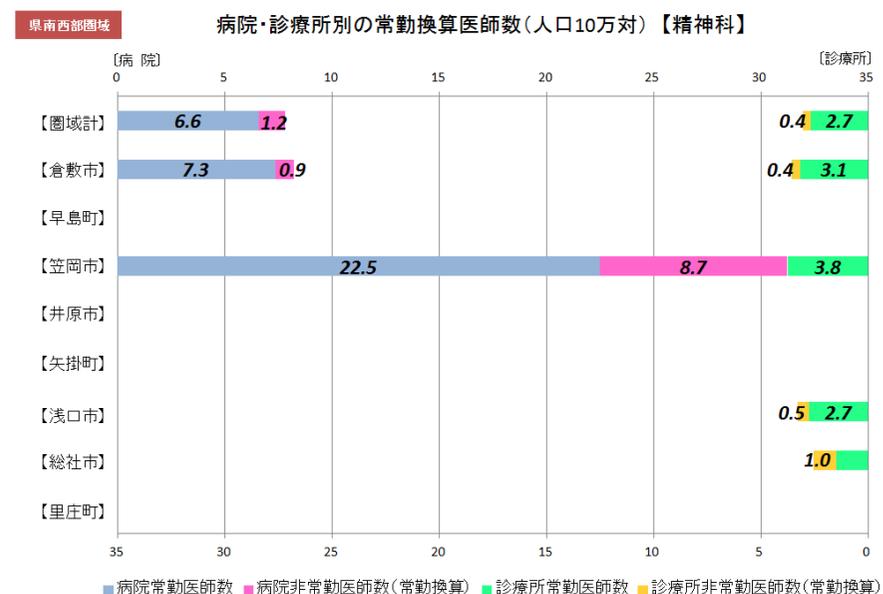
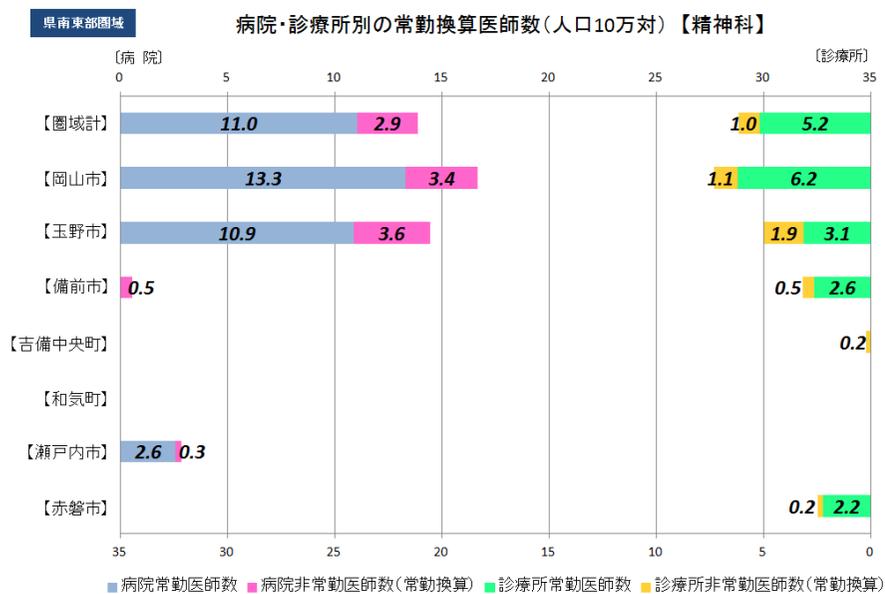
【参考】市町村ごとの（病院・診療所別）常勤換算医師数（人口10万対）



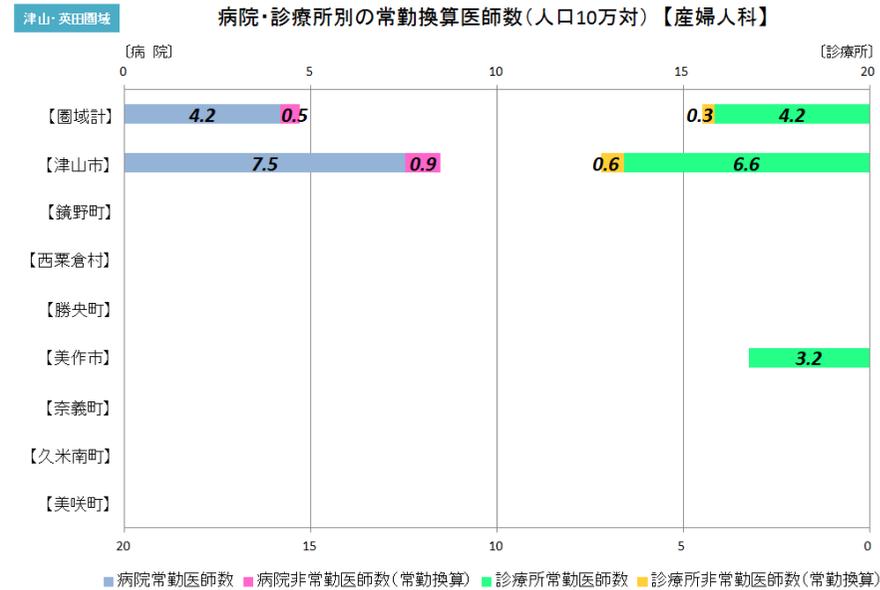
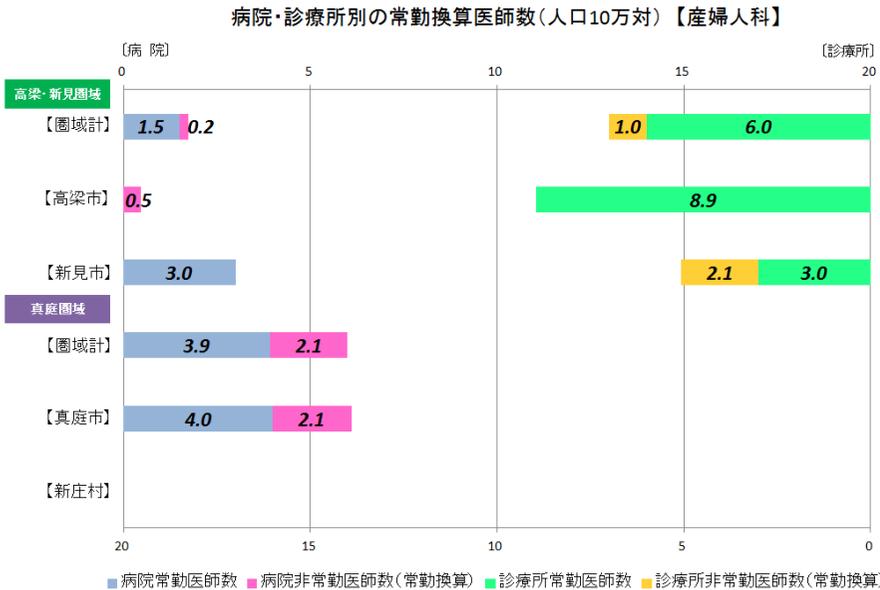
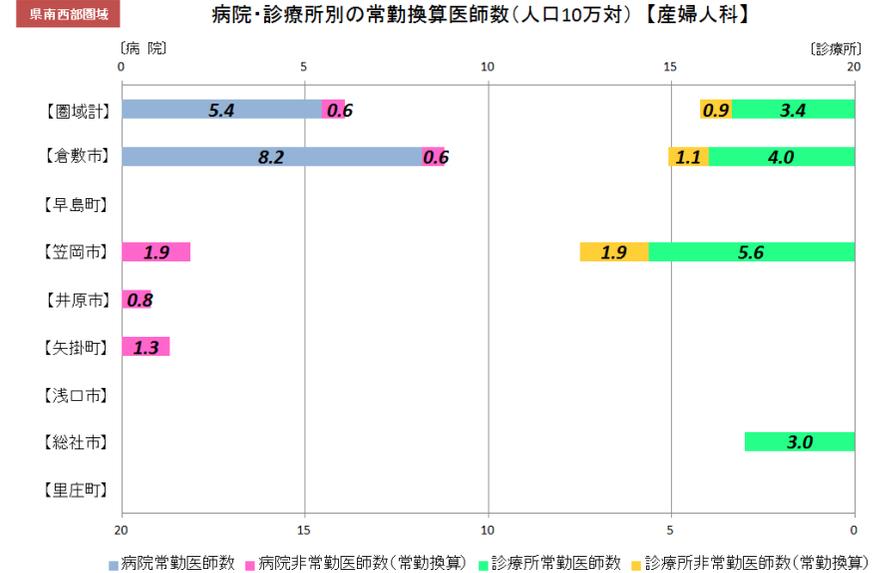
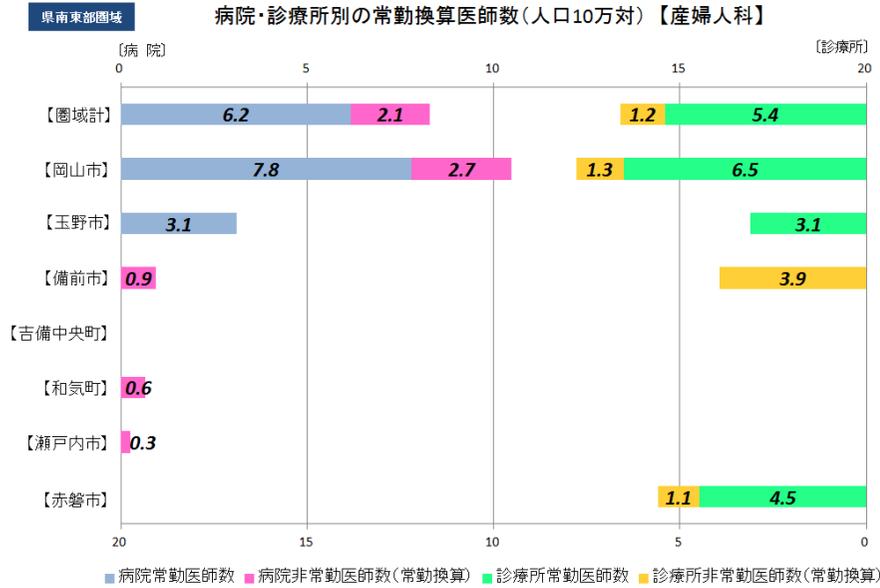
【参考】市町村ごとの（病院・診療所別）常勤換算医師数（人口10万対）



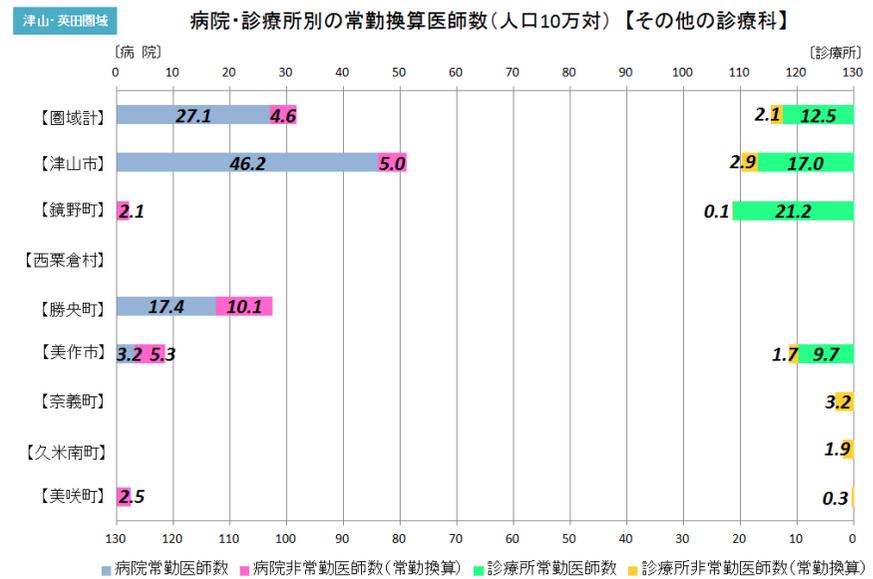
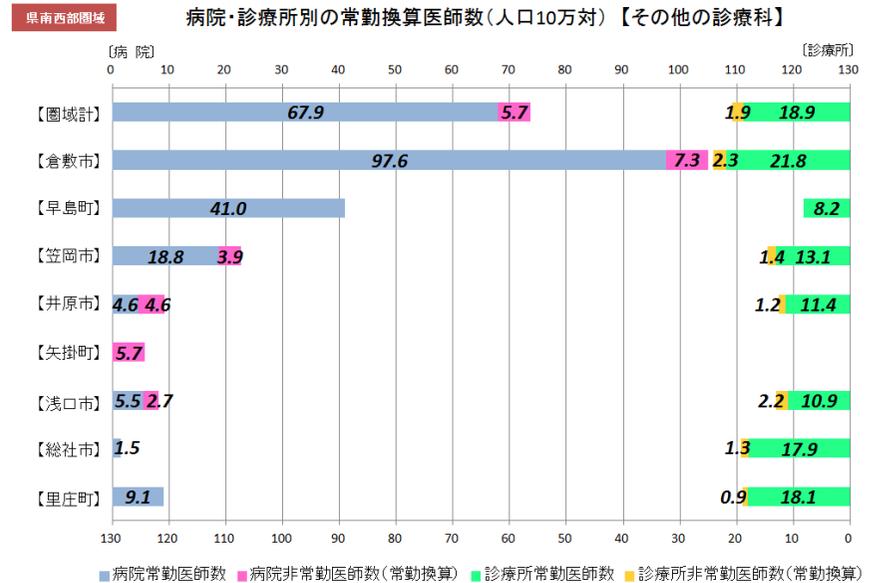
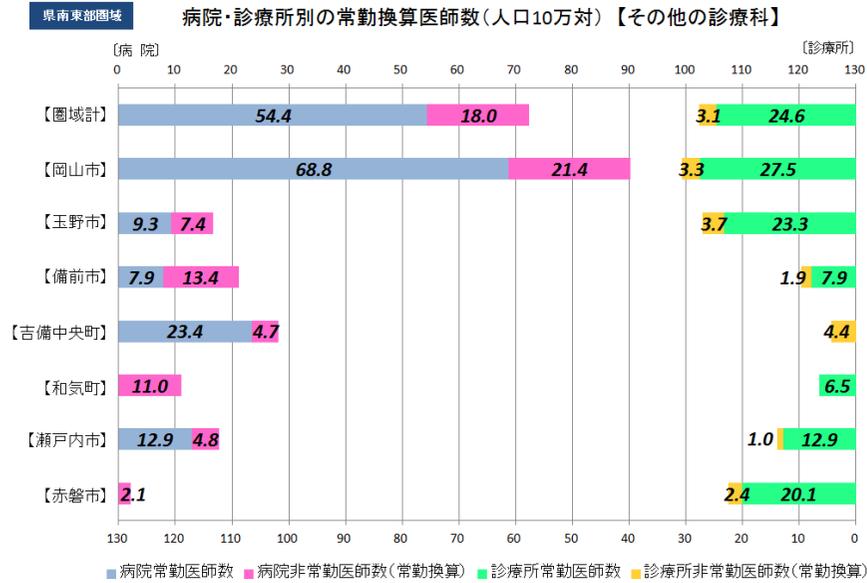
【参考】市町村ごとの（病院・診療所別）常勤換算医師数（人口10万対）



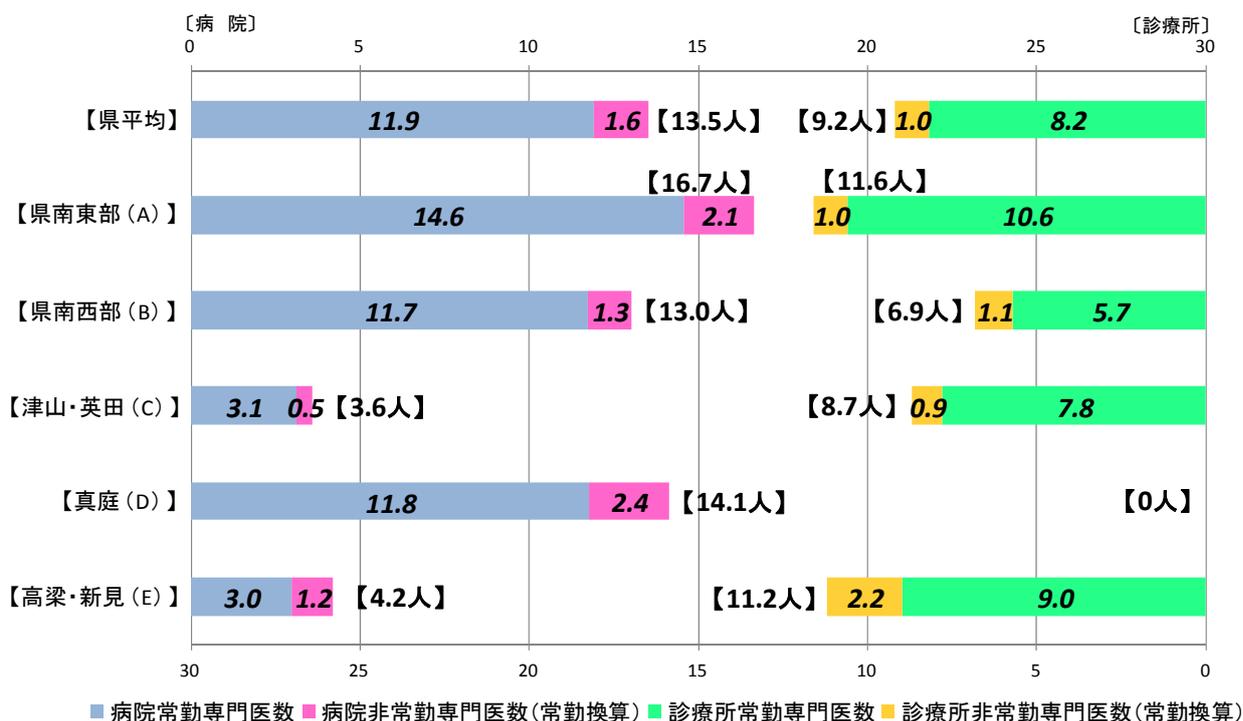
【参考】市町村ごとの（病院・診療所別）常勤換算医師数（人口10万対）



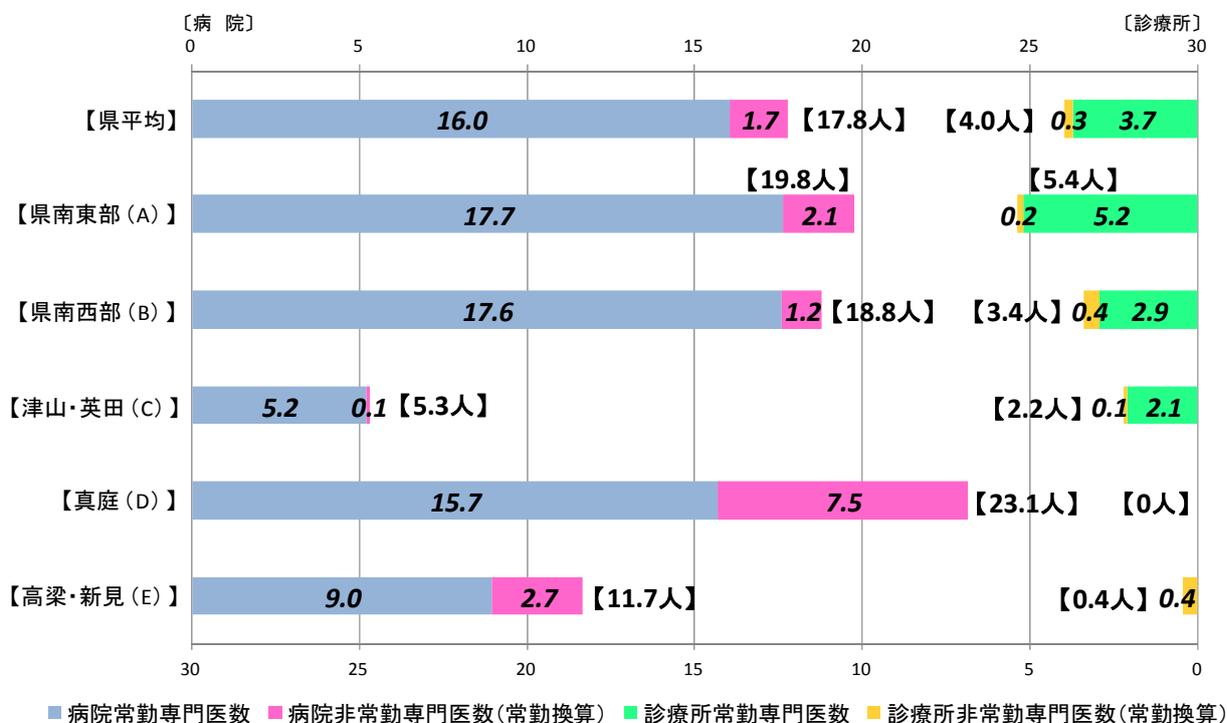
【参考】市町村ごとの（病院・診療所別）常勤換算医師数（人口10万対）



【参考】二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算専門医数（人口10万対）

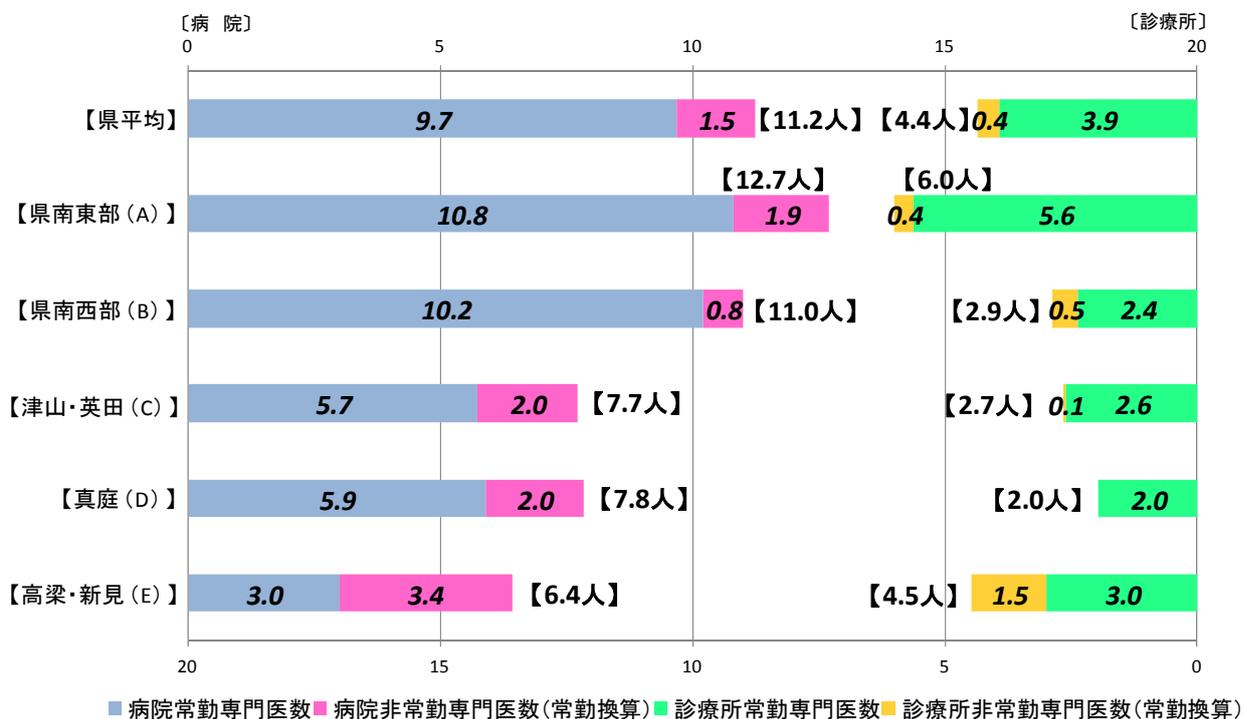


二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算専門医数（人口10万対）【総合内科専門医】

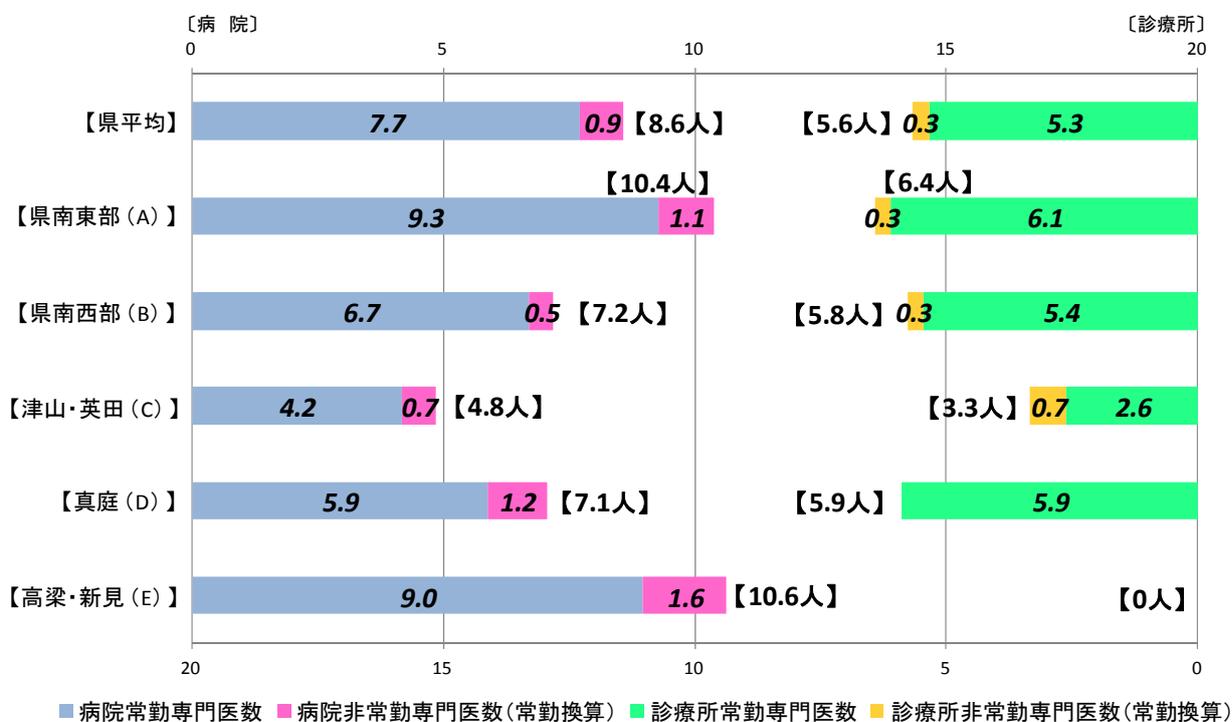


二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算専門医数（人口10万対）【外科専門医】

【参考】二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算専門医数（人口10万対）

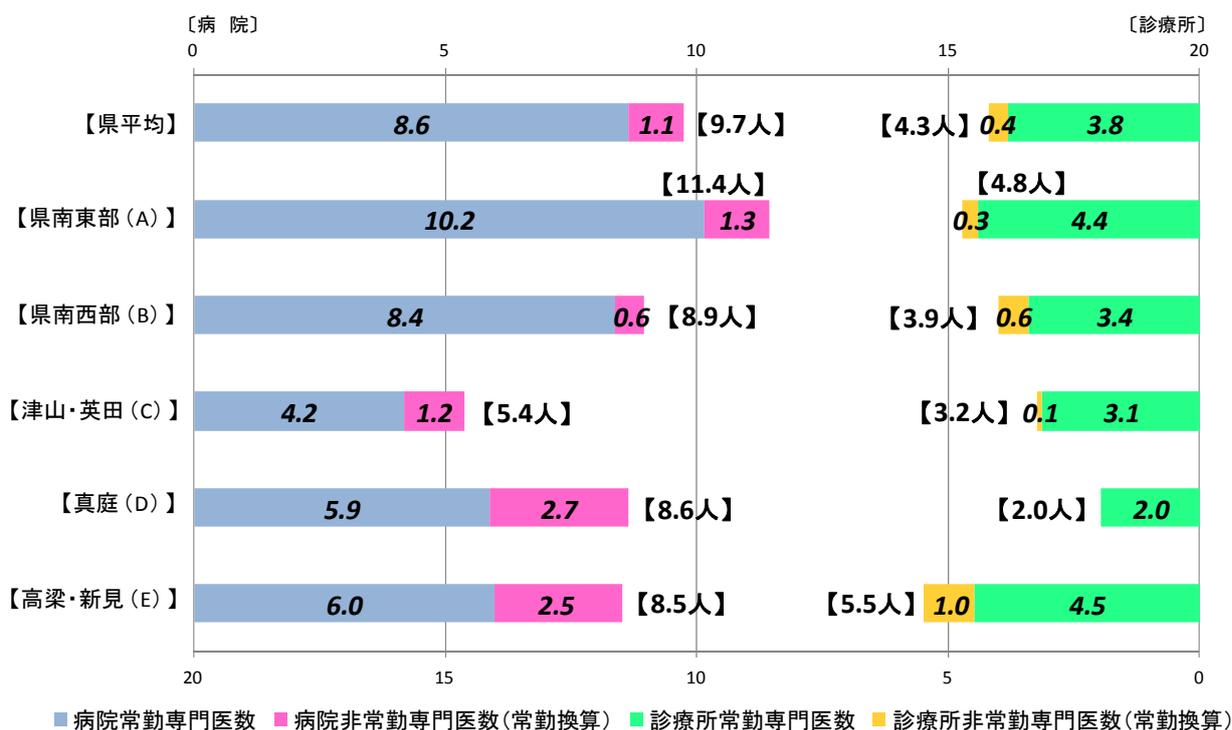


二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算専門医数（人口10万対）【消化器病専門医】

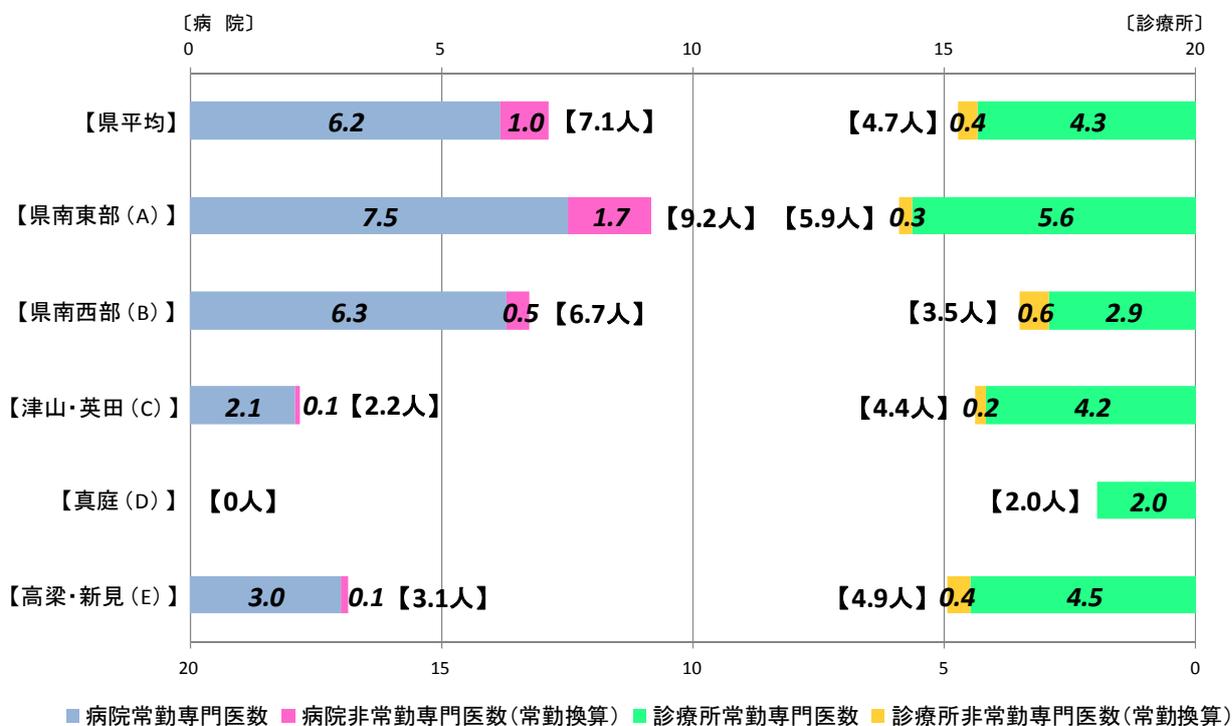


二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算専門医数（人口10万対）【整形外科専門医】

【参考】二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算専門医数（人口10万対）

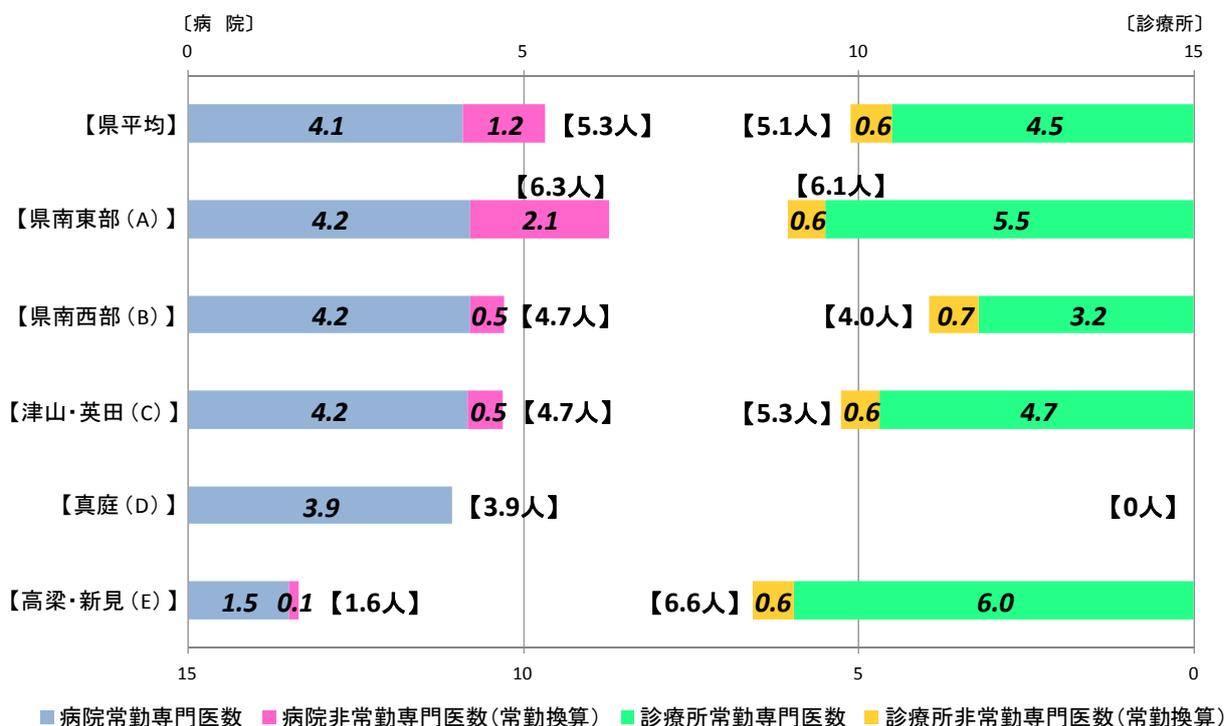


二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算専門医数（人口10万対）【消化器内視鏡専門医】

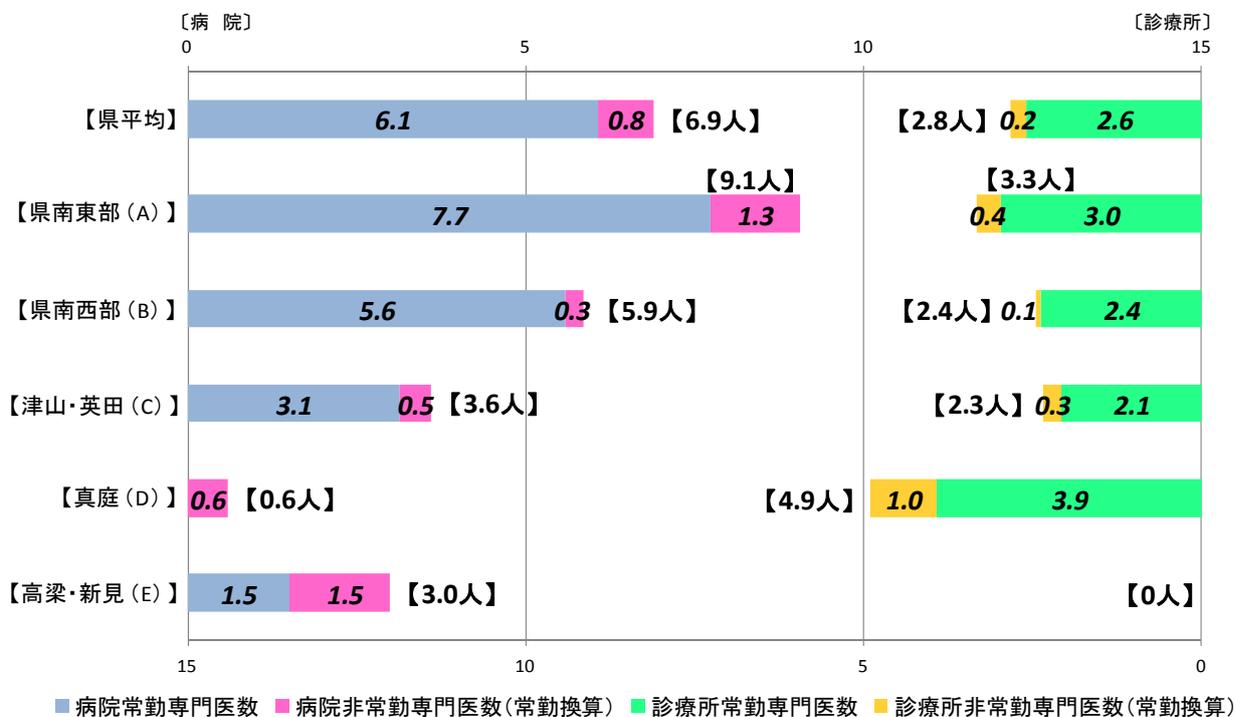


二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算専門医数（人口10万対）【小児科専門医】

【参考】 二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算専門医数（人口10万対）



二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算専門医数（人口10万対）【産婦人科専門医】



二次保健医療圏ごとの病院・診療所別の常勤換算専門医数（人口10万対）【循環器専門医】